



教育に関するアンケートの結果について

柏市教育委員会 教育政策課

調査概要



1 目的

次期教育振興計画を策定するための基礎調査（※生涯学習と芸術文化に関する調査も合わせて実施）

2 対象

- (1) 市民（16歳以上）
- (2) 市立小中高等学校の児童生徒（小2・5年，中1年，高1年）
- (3) 市立小中高等学校の教職員

3 期間

令和6年12月5日～27日

4 回収方法

- (1) 市民：郵送による配布，郵送・WEBによる回収
- (2) 児童生徒：校務支援システムによる配布，タブレットでのWEB回答
- (3) 教職員：同上

5 回答状況

対象	配布数	回答数	回答率
全体	17,243通	9,623通	55.8%
(1) 市民	4,000通	1,574通	39.4%
(2) 小中学生	10,049通	6,874通	68.4%
(3) 高校生	320通	260通	81.3%
(4) 教職員	2,874通	915通	31.8%

対象ごとの設問一覧

※生涯学習、芸術文化に関する設問は除く



づくも
つなぐ。

カテゴリー	市民	教職員	小・中学生	高校生
目指す人物像 /必要な力	どのような大人になってほしいか		将来どんな人になりたいか	
	どのような資質や能力が必要か	-	自分のよいところは	
学校教育の 方向性	-	子どもが望む先生は	いいなと思う先生は	
	柏市の教育的課題は	-	-	-
	小中学校の教育で充実させるべき取組は	今後の学校教育で取組む必要があることは	理解が進む学び方	
	-	学校の教育で重要なことは	学校で楽しいことは	-
	-	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践状況	タブレットを使った授業で良いことは	
	-	-	登下校時に負担になっていることは	
地域連携 /家庭教育	学校に対して協力していることは	学校として地域に求めたいこと	-	
	学校に対して協力してもよいと思うことは			
	-	地域とともにある学校づくりで大切なことは 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた 取組の現状の成果は	-	
	地域の小中学生とどう接しているか	-	地域の大人が見守ってくれていると感じるか 地域の大人に望むことは	
	学校に対して教育以外に期待することは 地域における教育で大事なことは 家庭における教育で大事なことは	-	-	
	地域の教育活動や学校支援ボランティアに協力したいか	-	学校に地域の大人（ボランティア） がいることをどう思うか	-
			地域イベントに参加しているか	
個別事象	-	《教員の働き方》 忙しいと感じているか 授業以外で時間を要する業務は 必要な働き方改革は	《相談体制の整備》 困ったときの相談相手は	

◎ 多くの設問において、回答と教育委員会の目指す方向性が一致（スライド4）

➡ ニーズを満たすため、第3次教育振興計画において推進を図る

▲ いくつかの設問において、対象者間の回答に乖離がある、
また、回答と教育委員会の目指す方向性に乖離がある（スライド5）

➡ 認識のズレを解消するため、第3次教育振興計画において推進を図る

回答まとめ ～ 回答と教育委員会の目指す方向性が一致する内容 ～



カテゴリー	内容	回答	参照	第3次計画での位置付け
目指す人物像/ 必要な力	「どのような大人に育ってほしいか」 (市民・教職員)	◎「自分で考え、主体的に行動できる人」	スライド6	
	「どのような資質や能力が必要か」 (市民)	◎「他者への思いやりを持ち、多様な意見や考えを尊重する力」 ◎「問題を解決するための思考力・行動力」	スライド8	
学校教育の 方向性	「タブレットを使った授業でよかったこと」 (小・中・高校生)	◎「興味関心のあることを調べたり、学んだりする機会が増えた」 ◎「自分に必要な学習内容を探して選ぶことができるようになった」	スライド14	施策1 主体的な学び手の育成
	「学校教育で教えることで、特に重要なこと」 (教職員)	◎「人権の尊重・思いやりの心を育むこと」 ◎「多様性を尊重し、他者と協働しながらグローバル社会に向けた力を育むこと」	スライド12	
	「小中学校の教育で特に充実させるべき取組」 (市民)	◎「外国語教育・国際理解教育」 ◎「ICT教育・情報モラル教育」 ◎「道徳教育」「いじめの予防や対応」	スライド11	施策1 主体的な学び手の育成 施策3 多様な教育ニーズへの対応
	「柏市における教育的課題だと感じるもの」 (市民・教職員)	◎「道徳心や規範意識等の向上」 ◎「問題行動やいじめ・不登校への対応」	スライド10	施策3 多様な教育ニーズへの対応
	「学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるもの」(教職員)	◎「教職員の働き方改革」 ◎「教職員の指導力の向上」	スライド11	施策4 学びを支える教育環境の構築
地域連携/ 家庭教育	「学校に対して協力してもよいこと」 (市民)	◎「登下校の交通安全の見守り」 ◎「学校行事の支援」	スライド16	施策5 家庭・地域との連携・協働の推進
	「学校として地域に求めたいこと」 (教職員)	◎「登下校に関する対応」 ◎「地域ボランティアとの連携調整」 ◎「学校行事等の準備・運営」		
	「地域の大人に望むこと」 (小・中・高校生)	◎「安全のための見守り」 ◎「あいさつ」 ◎「放課後や夏休み等の居場所」	スライド19	

回答まとめ ～ 対象者間の回答に，または回答と教育委員会の目指す方向性に乖離がある内容 ～



【補足】 ◎：回答の割合が多い
▲：回答の割合が少ない

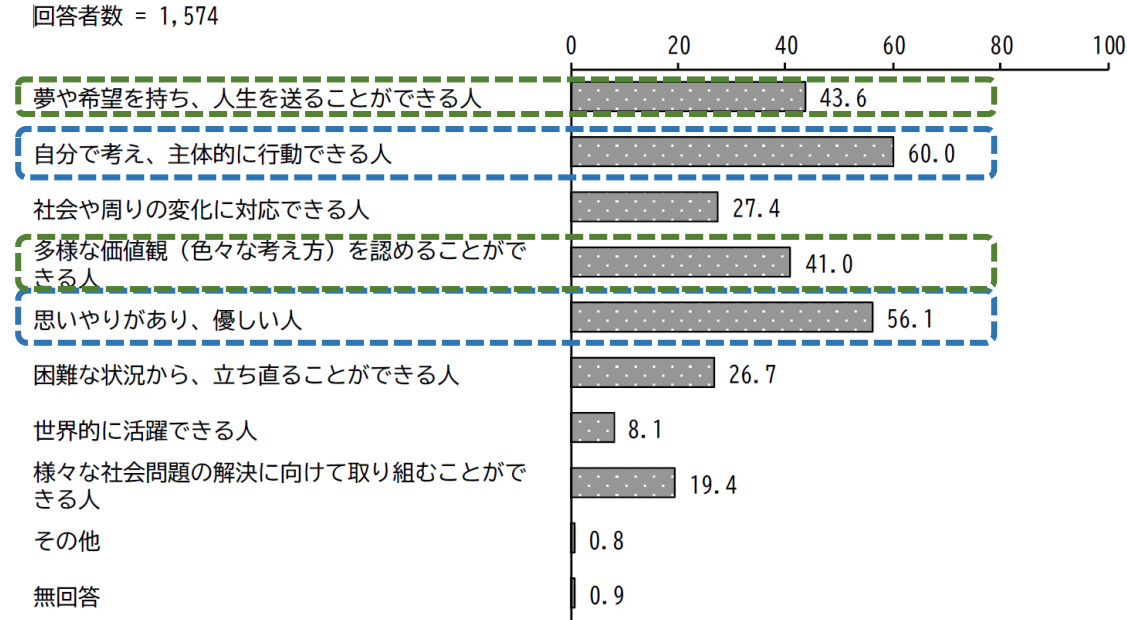
カテゴリー	内容	回答	乖離	設問と回答	第3次計画での位置付け
学校教育の方向性	「柏市における教育的課題だと感じるもの」 (市民・教職員)	「幼・保・こ・小・中学校間の連携の強化」	市民：▲ 教職員：▲ 教育委員会は推進の方向性	スライド10	施策2 連続性のある学びの実現
	「柏市における教育的課題だと感じるもの」 (市民・教職員)	「家庭の教育力の向上」	市民：▲ 教職員：◎	スライド10	施策5 家庭・地域との連携・協働の推進



設問 将来の柏市を考えたとき、子どもたちにどのような大人になってほしいか（3つまで）

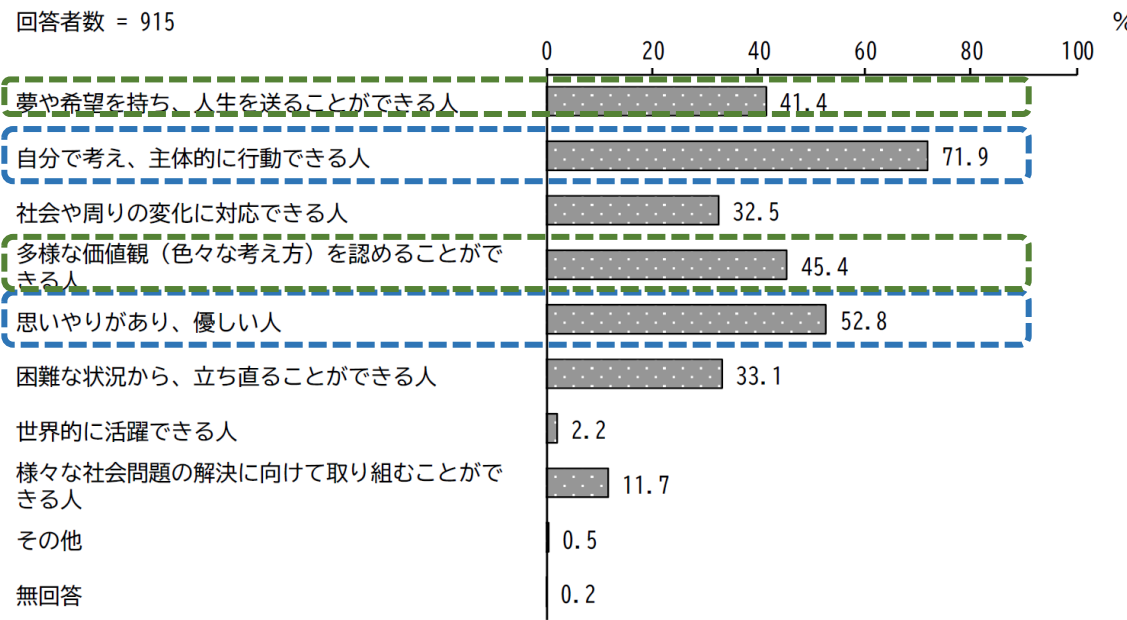
【市民】

回答者数 = 1,574



【教職員】

回答者数 = 915

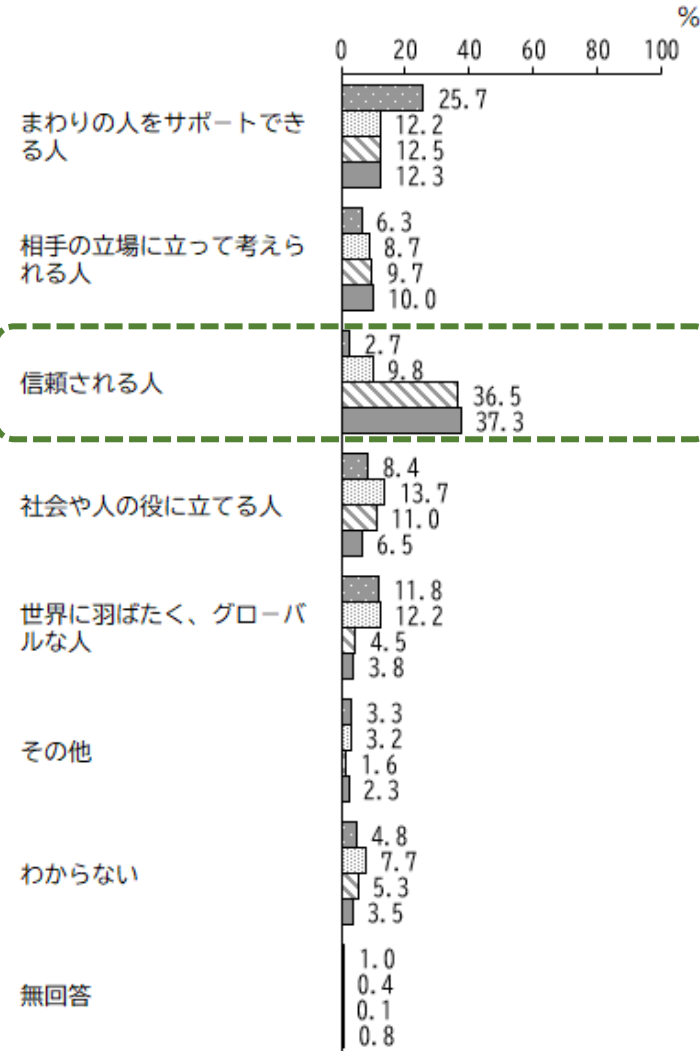
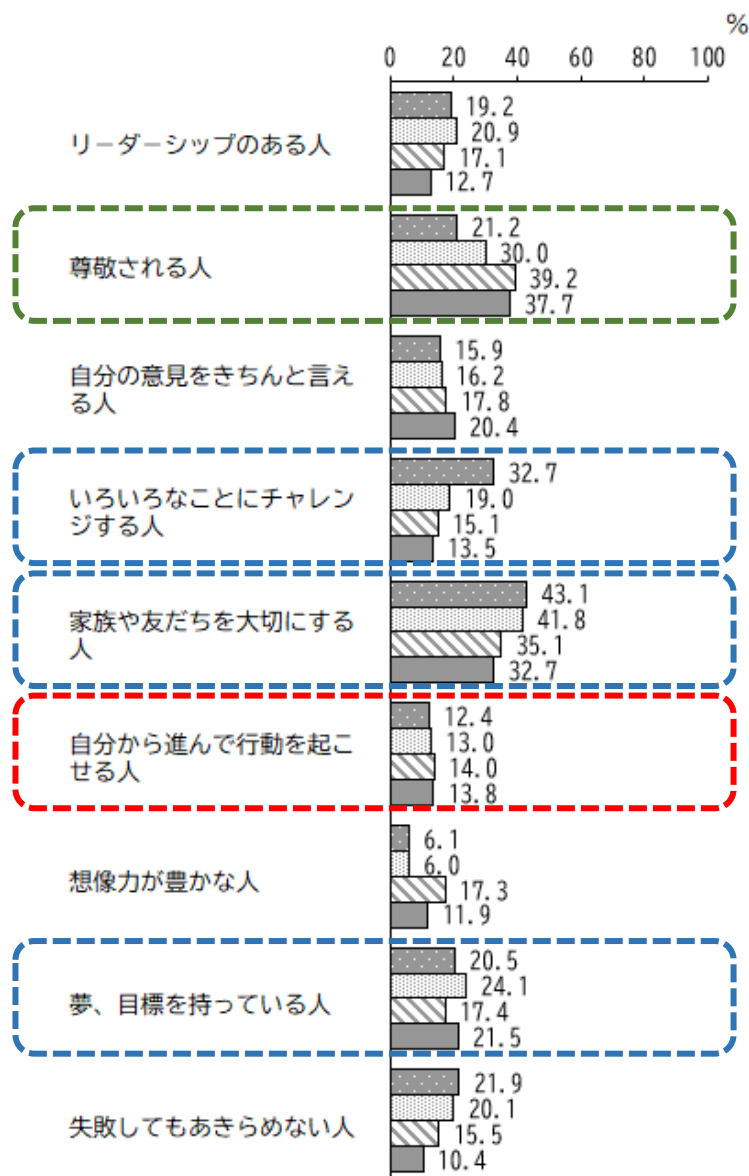


- 市民と教職員のいずれも「自分で考え、主体的に行動できる人」が最も多く、次いで「思いやりがあり、優しい人」が多い。
- その他「夢や希望を持ち、人生を送ることができる人」や「多様な価値観（色々な考え方）を認めることができる人」の回答が多い。

回答概要



設問 将来どんな人になりたいか（3つまで）【小・中・高校生】



■ 小学2年生
(回答者数 = 2,499)

▨ 小学5年生
(回答者数 = 2,543)

▩ 中学生
(回答者数 = 1,832)

■ 高校生
(回答者数 = 260)

- 小学生では、「家族や友だちを大切にする人」「夢、目標を持っている人」「いろいろなことにチャレンジする人」など、自分自身に視点を置いた選択が多い。
- 一方、中学生や高校生では、「尊敬される人」や「信頼される人」など、他者との関わりに視点が置かれた選択が多い。
- 「自分から進んで行動を起こせる人」の回答は他と比べて高くなく、市民や教職員が思う育ててほしい大人像（自分で考え、主体的に行動できる人）とのずれがある。

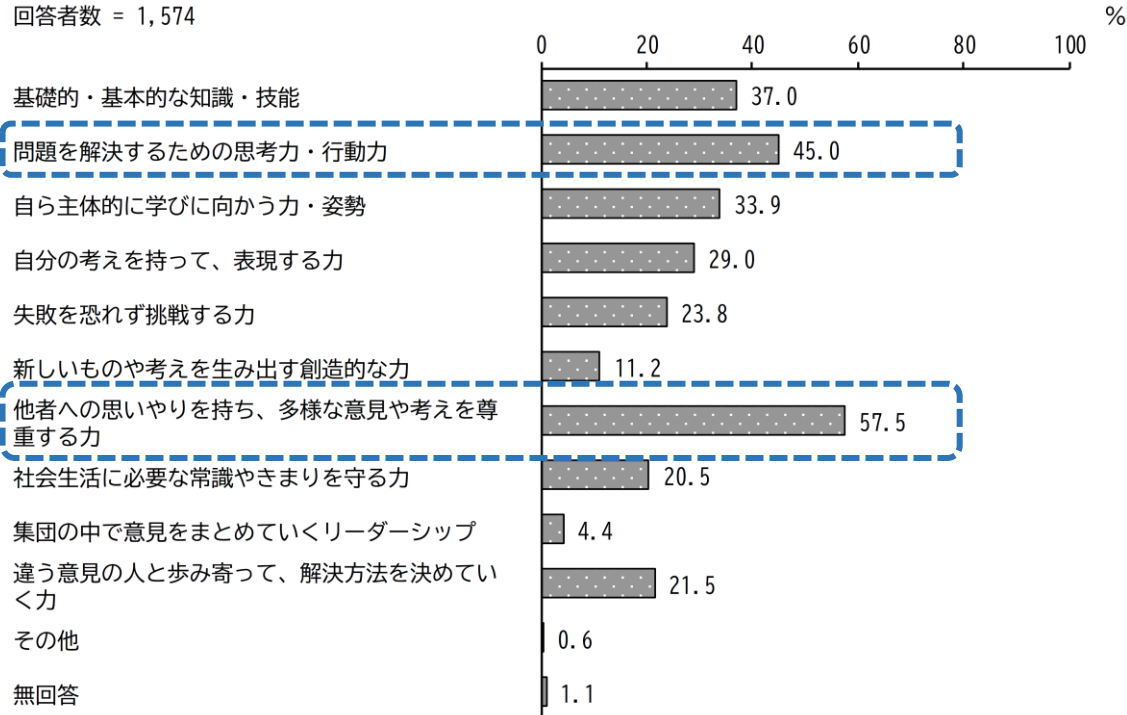
回答概要



設問 どのような資質や能力が必要か（3つまで）

【市民】

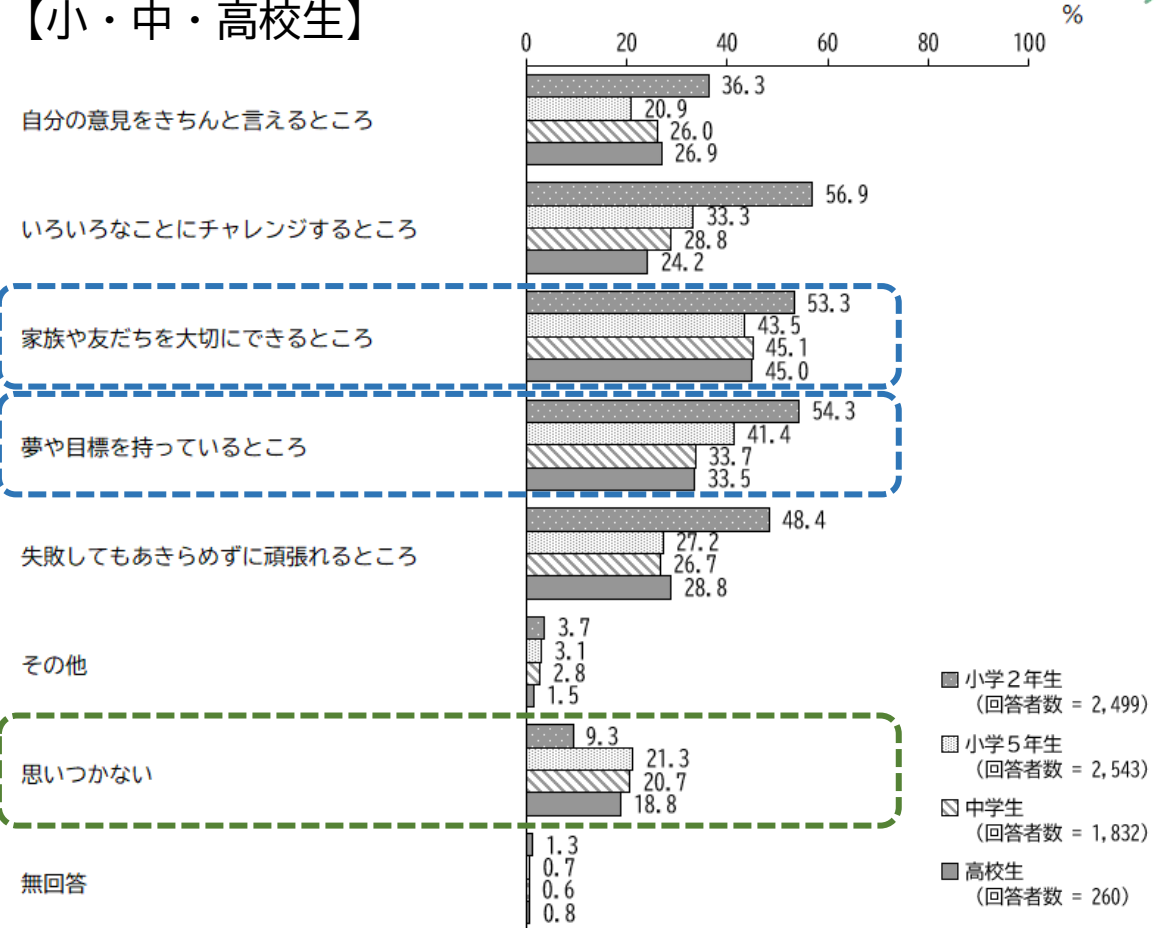
回答者数 = 1,574



- 「他者への思いやりを持ち、多様な意見や考えを尊重する力」が最も多く、次いで「問題を解決するための思考力・行動力」が多い。

設問 自分のよいところは（いくつでも）

【小・中・高校生】



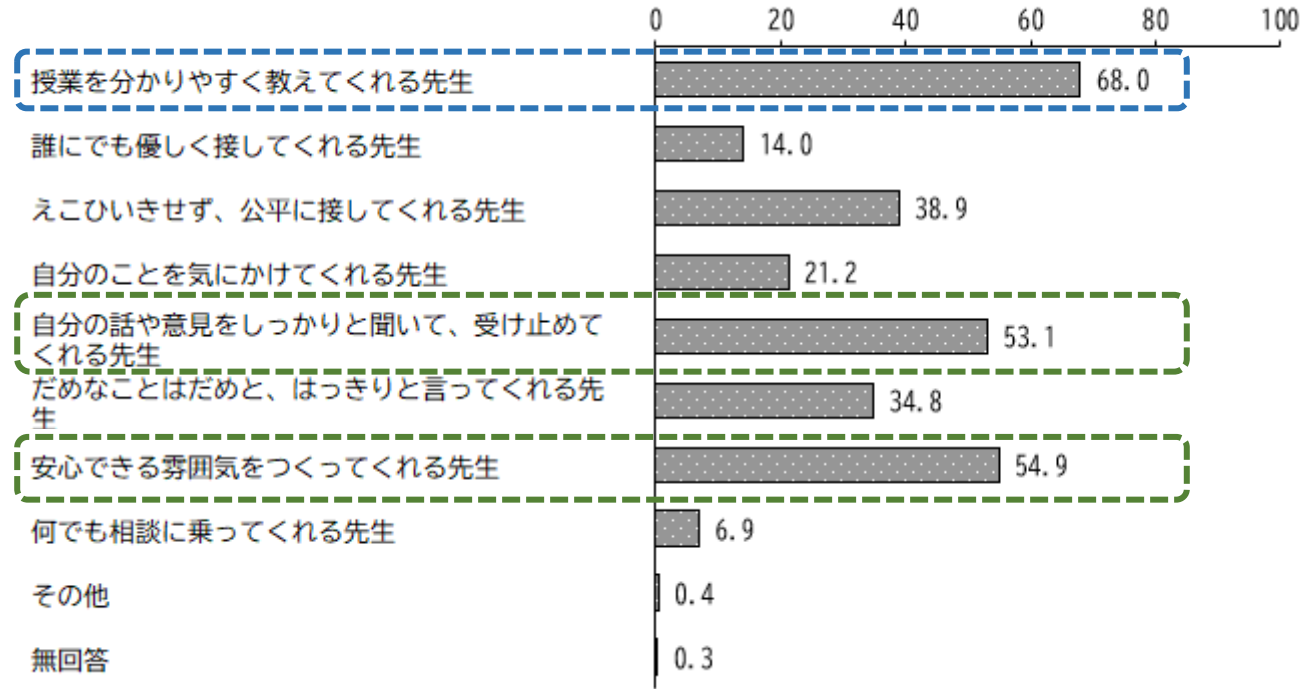
- いずれの学年でも「家族や友だちを大切にできるところ」や「夢や目標を持っているところ」を自分のよいところだと回答する割合が高い。
- 低学年ほど、多くのよいところを見つけている。
- 自分のよいところを思いつかない子どもも2割程度いる。

回答概要



設問 子どもたちが望む先生（3つまで）【教職員】

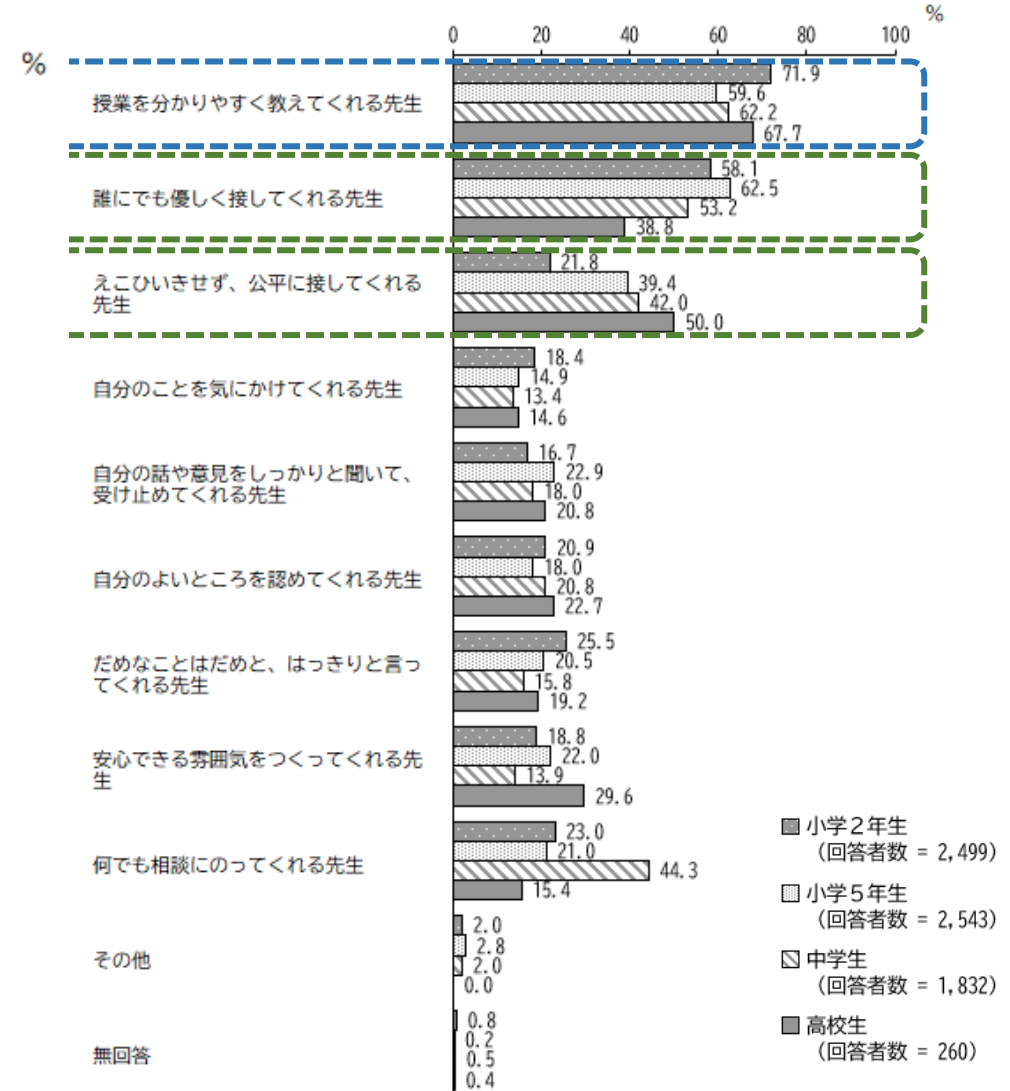
回答者数 = 915



- 「授業を分かりやすく教えてくれる先生」については、児童生徒と教職員で一致している。
- 児童生徒は「誰にでも優しく接してくれる先生」や「えこひいきせず、公平に接してくれる先生」をいいなと思っている一方、教職員としては、「自分の話や意見をしっかりと聞いて、受け止めてくれる先生」や「安心できる雰囲気をつくってくれる先生」が望まれていると考えている。

設問 いいなと思う先生（3つまで）

【小・中・高校生】

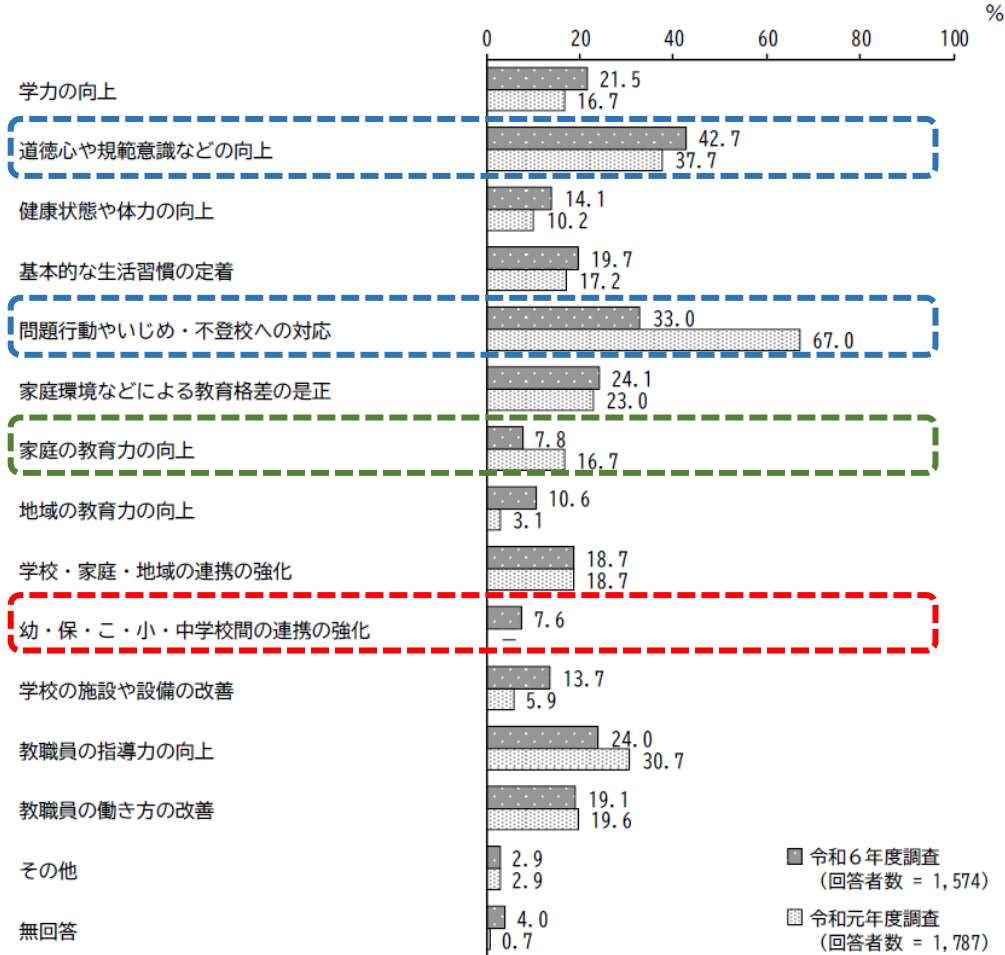


回答概要



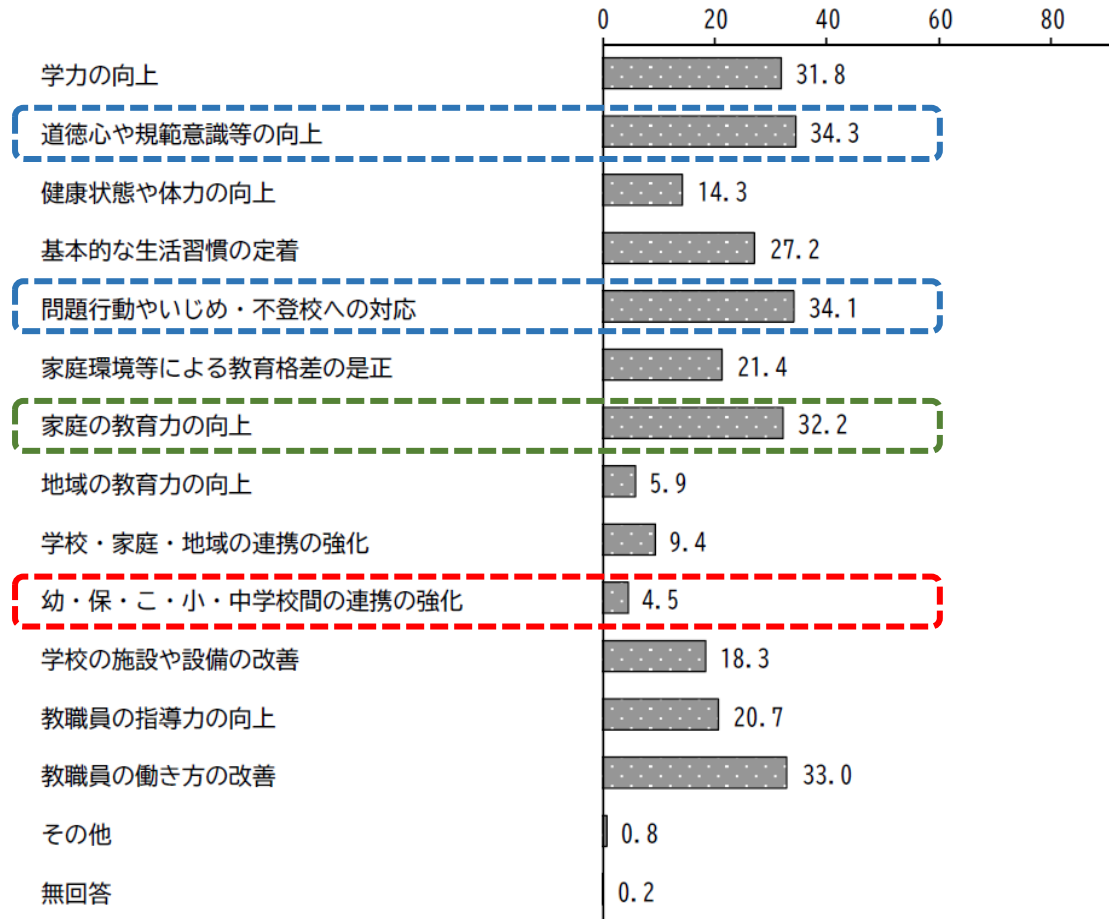
設問 柏市における教育的課題だと感じるもの（3つまで）

【市民】



【教職員】

回答者数 = 915



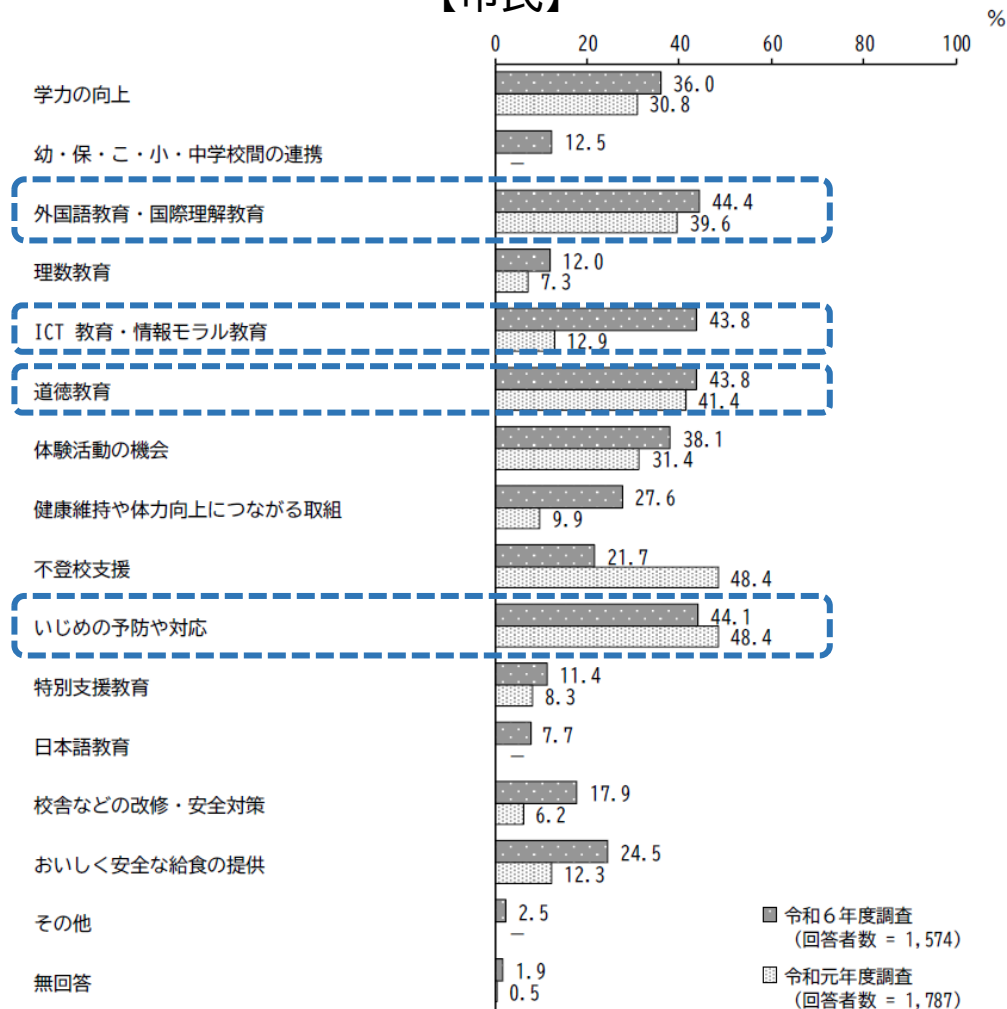
- 「問題行動やいじめ・不登校への対応」は前回と比べ、大きく減少しているものの、「道徳心や規範意識などの向上」とともに、市民と教職員で共通して課題であると捉えられている。
- 一方、「家庭の教育力の向上」は認識のずれが大きい。
- 「幼・保・こ・小・中学校間の連携の強化」を課題と感じている割合はいずれも低い。

回答概要



設問 小中学校の教育で特に充実させるべき取組

【市民】

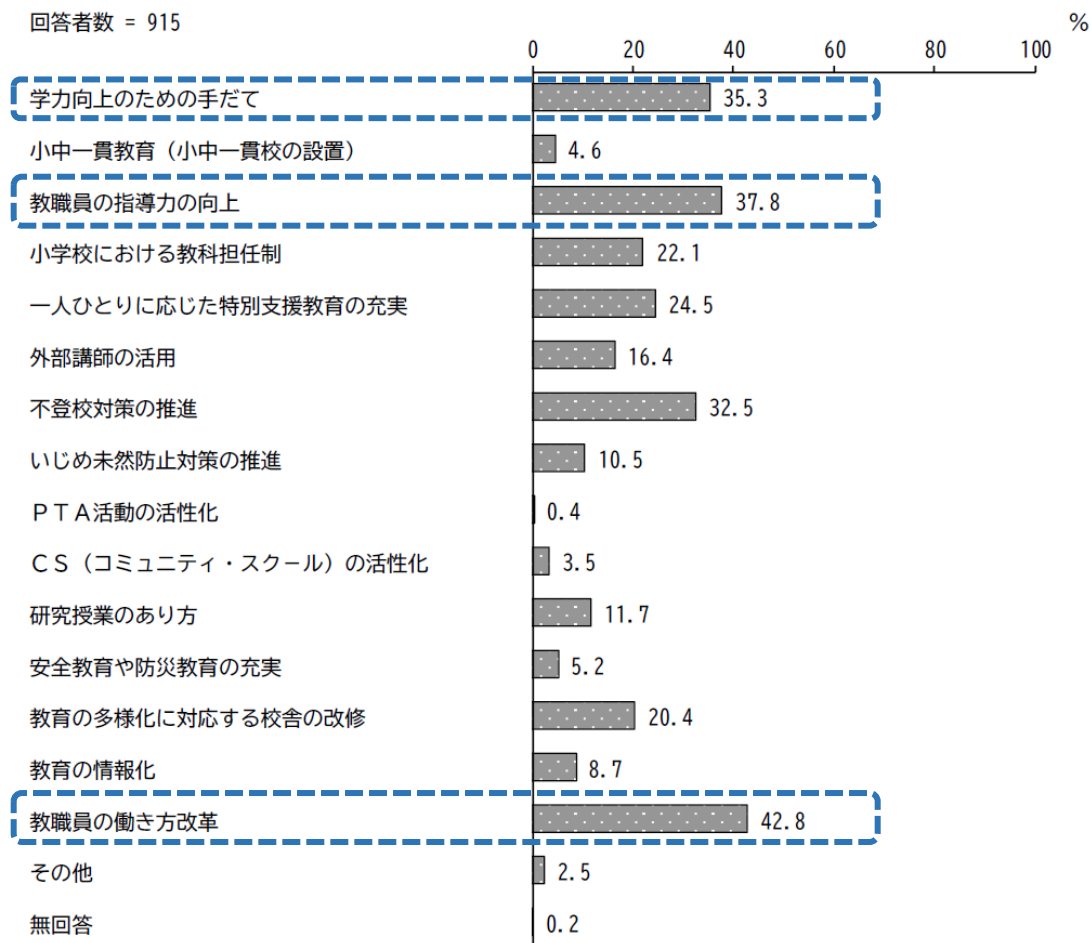


- 「外国語教育・国際理解教育」が最多。「ICT教育・情報モラル教育」が前回より大きく増加。「いじめの予防や対応」や「道徳教育」が前回に続き多い。

設問 学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるもの

【教職員】

回答者数 = 915



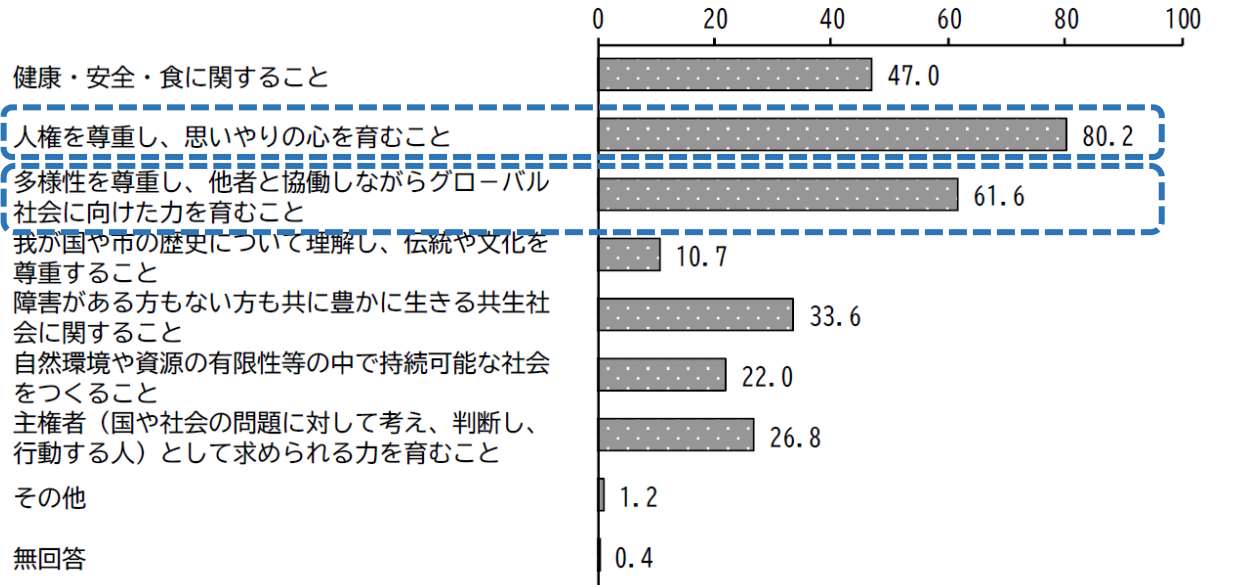
- 「教職員の働き方改革」が最多。「教職員の指導力の向上」や「学力向上のための手だて」が続く。

回答概要



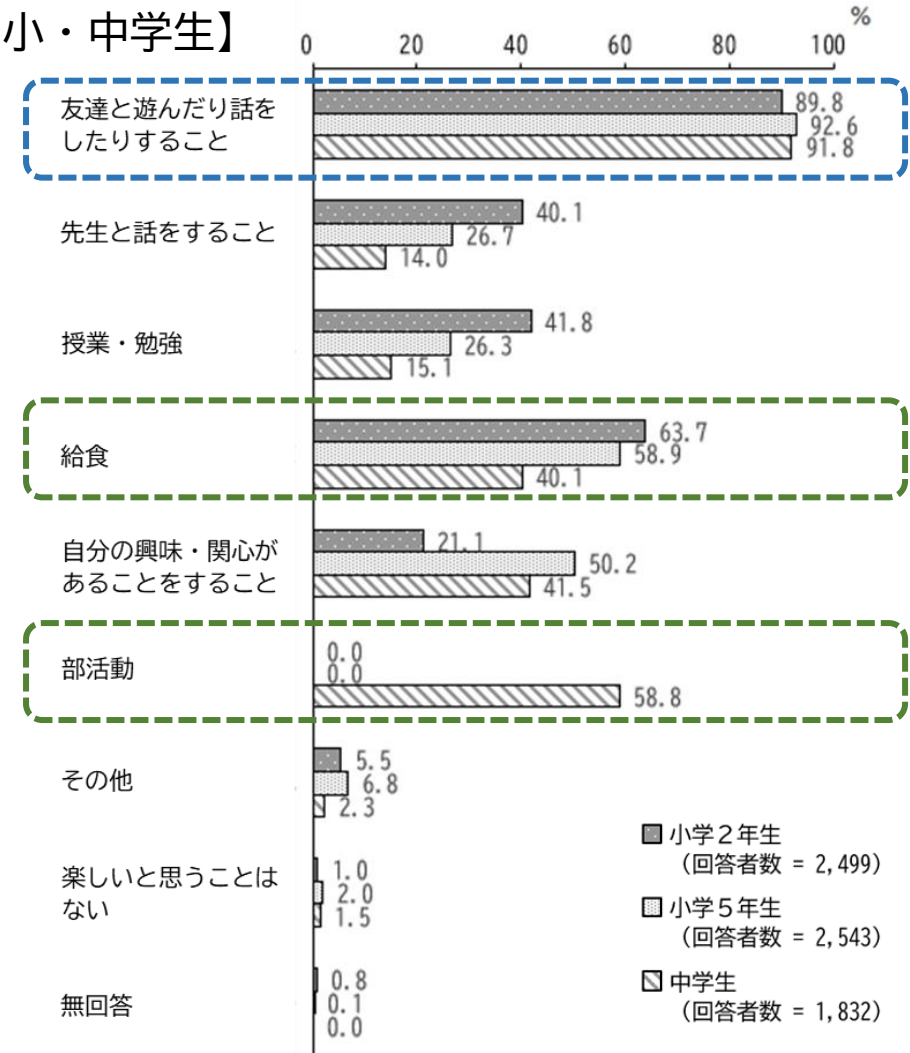
設問 学校教育で教えることで、特に重要なことは (3つまで) 【教職員】

回答者数 = 915



- 「人権を尊重し、思いやりの心を育むこと」が最も多く、次いで「多様性を尊重し、他者と協働しながらグローバル社会に向けた力を育むこと」が多い。

設問 学校で楽しいこと (3つまで) 【小・中学生】



- 全学年において、「友達と遊んだり話をすること」が最も多い。
- その他、小学生では「給食」が多く、中学生では「部活動」が多い。

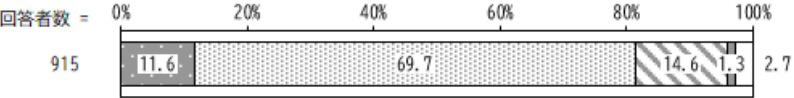
回答概要



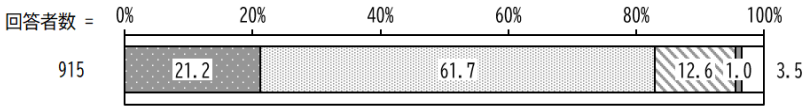
設問 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践状況（それぞれ1つ）

【教職員】

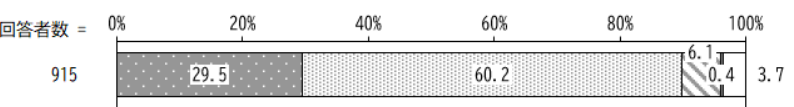
児童生徒が解決したいと思える課題を設定する



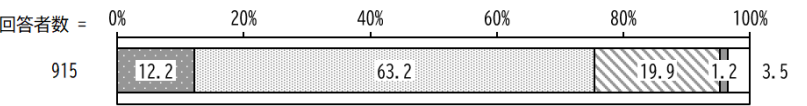
自分の考えを基に周りとの交流を通して、自分の考えを深めたり広げたりしている



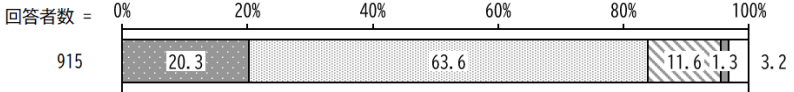
単元や授業の目標を明確にして、見通しを持たせる



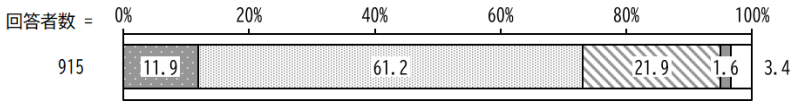
多面的・多角的なものの見方に気付かせる工夫をしている



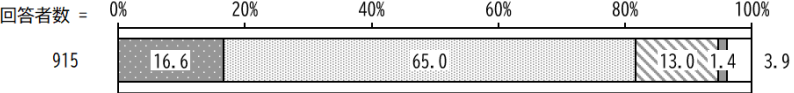
学習内容や身に付いたこと等を振り返らせ、次の学びや生活とのつながりを意識させる



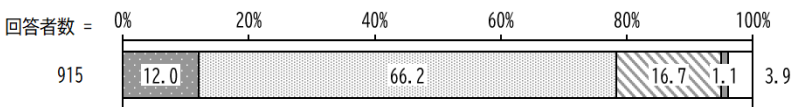
資料等と向き合い自分の考えを構築する時間の確保をしている



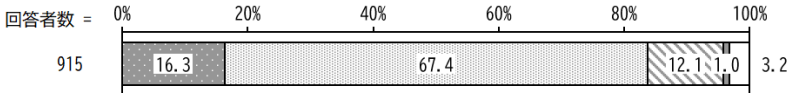
学習や活動等に最後まで粘り強く取り組ませる工夫をしている



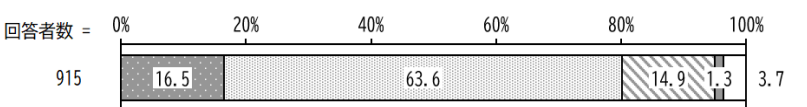
それぞれの教科等における「見方・考え方」を働かせて学習に取り組ませている



児童生徒の思考を促す発問を工夫する



評価規準を具体化し、指導との一体化を図っている



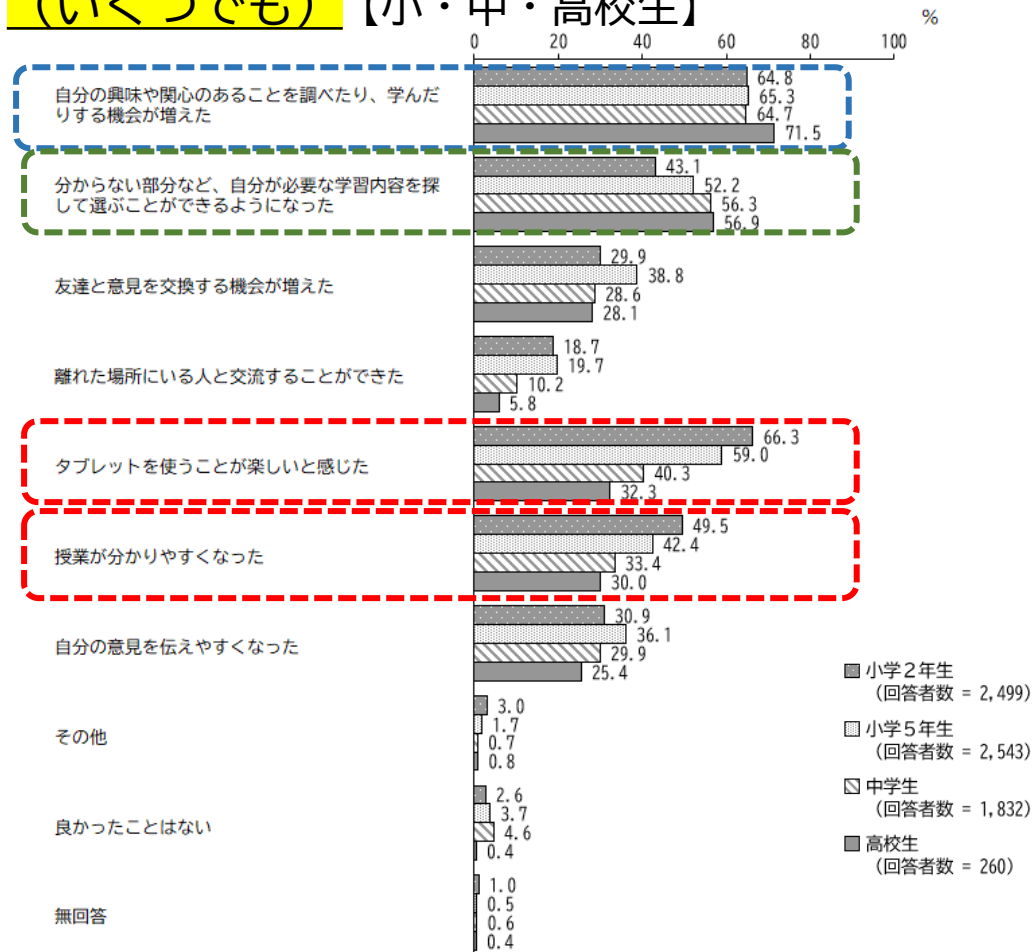
- できている
- ▨ どちらかというときていない
- 無回答
- どちらかというときていない
- できている

●いずれの項目においても、「できている」「どちらかというときていない」を選択した割合が8割以上である。

回答概要

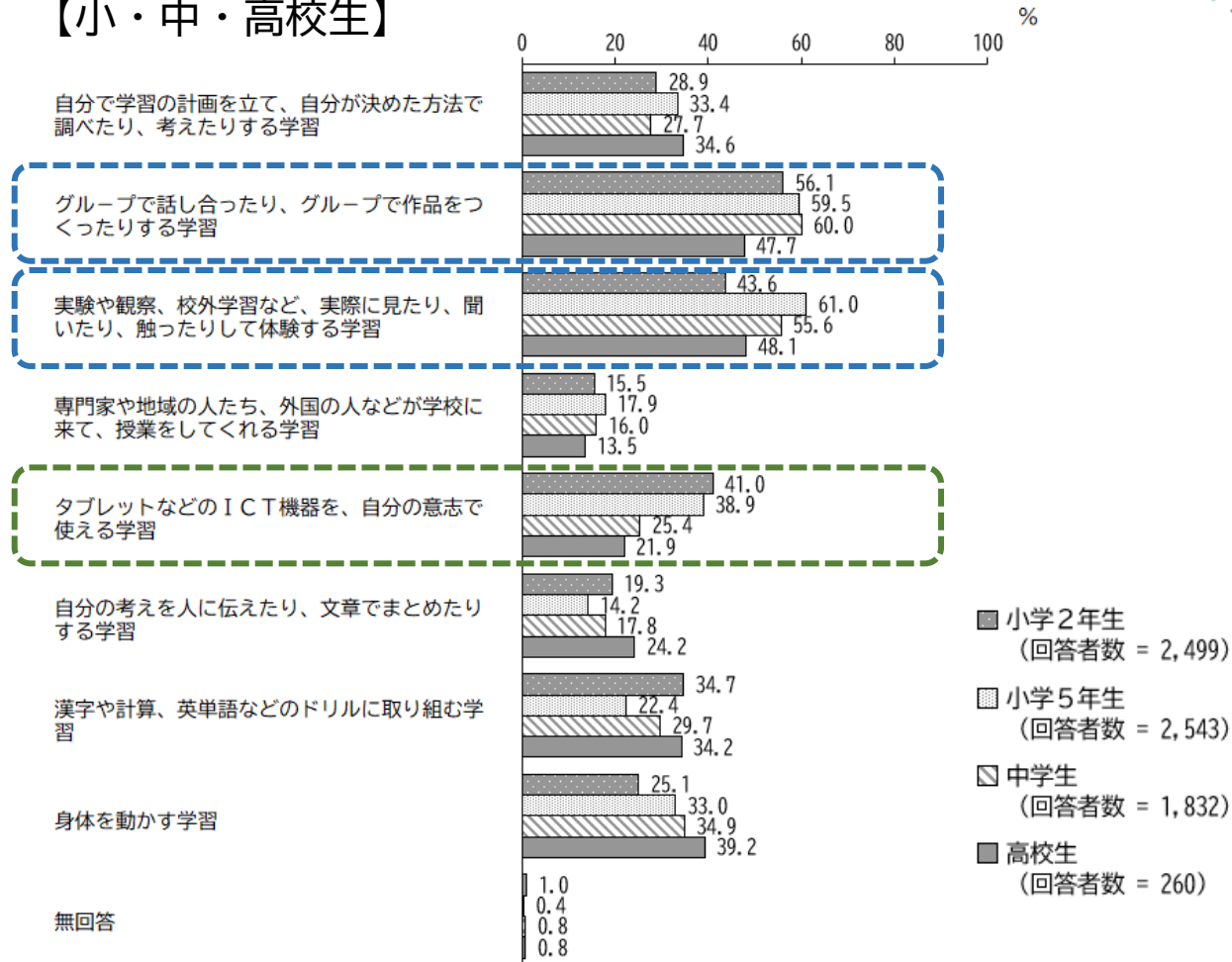


設問 タブレットを使った授業で良かったこと (いくつでも) 【小・中・高校生】



- 「自分の興味や関心のあることを調べたり、学んだりする機会が増えた」は学年を問わず、多くの回答があった。
- 「分からない部分など、自分が必要な学習内容を探して選ぶことができるようになった」は学年が上がるにつれ、回答が増えた。
- 一方、「タブレットを使うことが楽しいと感じた」や「授業が分かりやすくなった」は学年が上がるにつれ、回答が少なくなった。

設問 分かりやすい勉強方法 (3つまで) 【小・中・高校生】



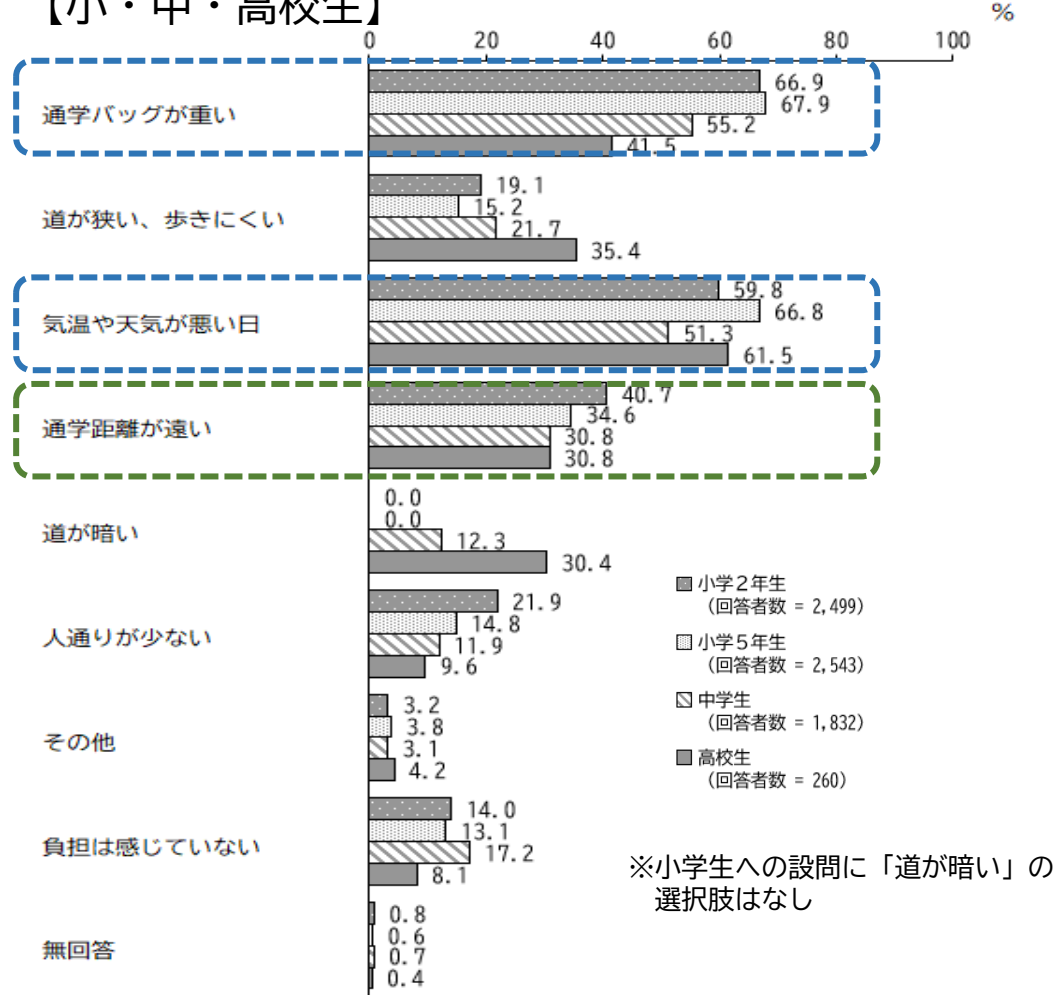
- いずれの学年の「グループで話し合ったり、グループで作品をつくったりする学習」や「実践や観察、校外学習など、実際に見たり、聞いたり、触ったりして体験する学習」が多くなっている。
- 「タブレットなどのICT機器を、自分の意志で使える学習」は学年が低いほど回答が多くなっている。

回答概要



設問 登下校時に大変なこと（3つまで）

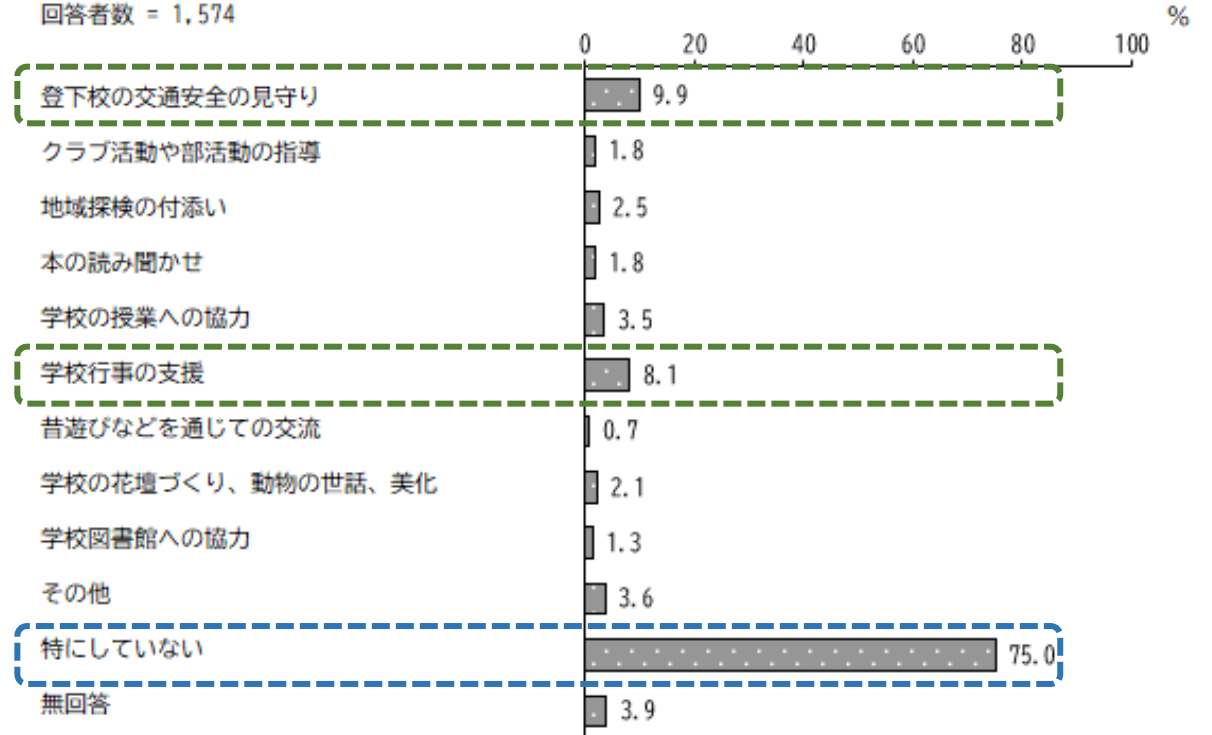
【小・中・高校生】



設問 学校に対して協力していること（いくつでも）

【市民】

回答者数 = 1,574



● いずれの学年も「通学バッグの重さ」や「気候が悪い日の登下校」に負担を感じている。
 ● 「通学距離の遠さ」について、3～4割の児童生徒が負担と感じている。

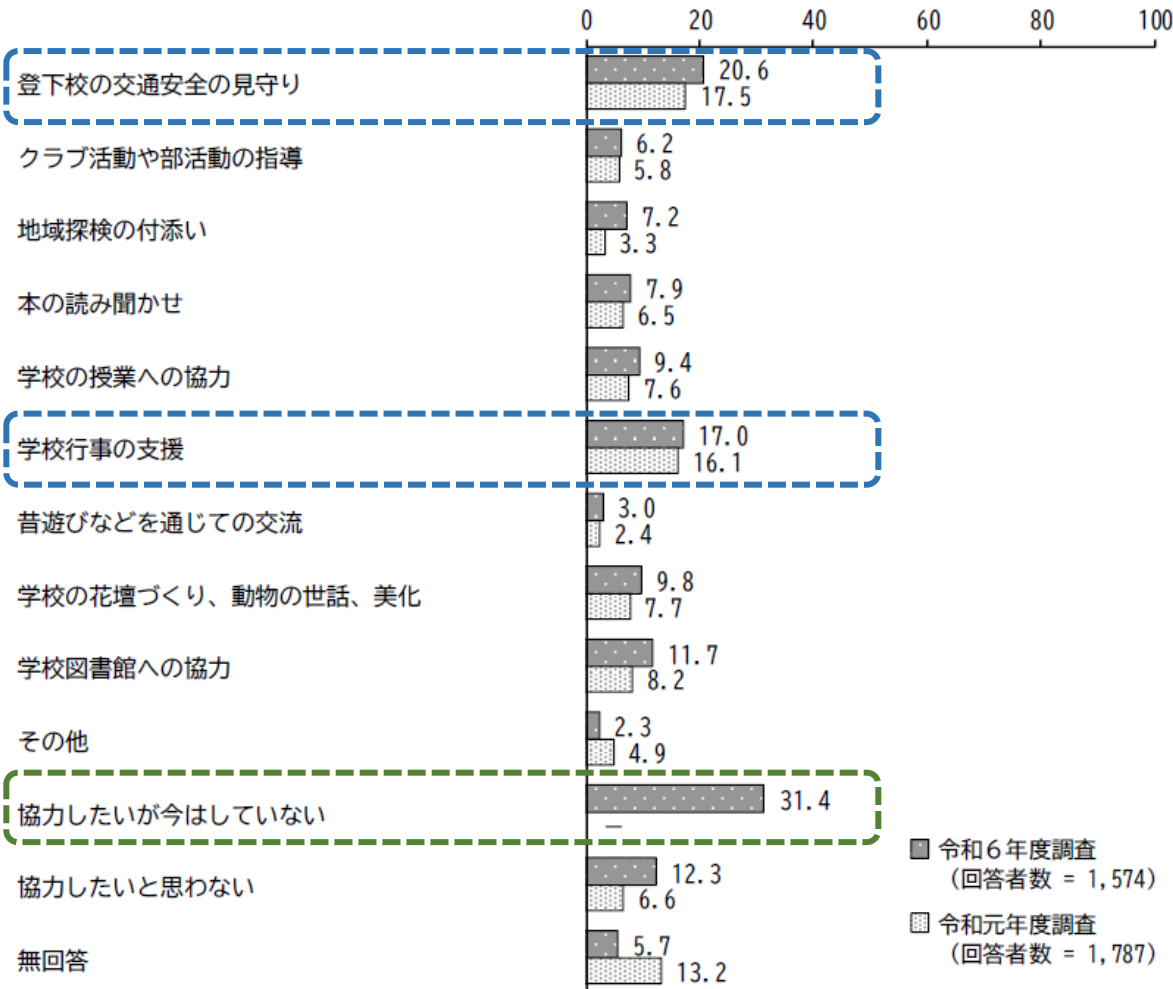
● 「特にしていない」の回答が多い。
 ● 協力している内容としては、「登下校の交通安全の見守り」次いで「学校行事の支援」が多かった。

回答概要



設問 学校に対して協力してもよいこと（3つまで）

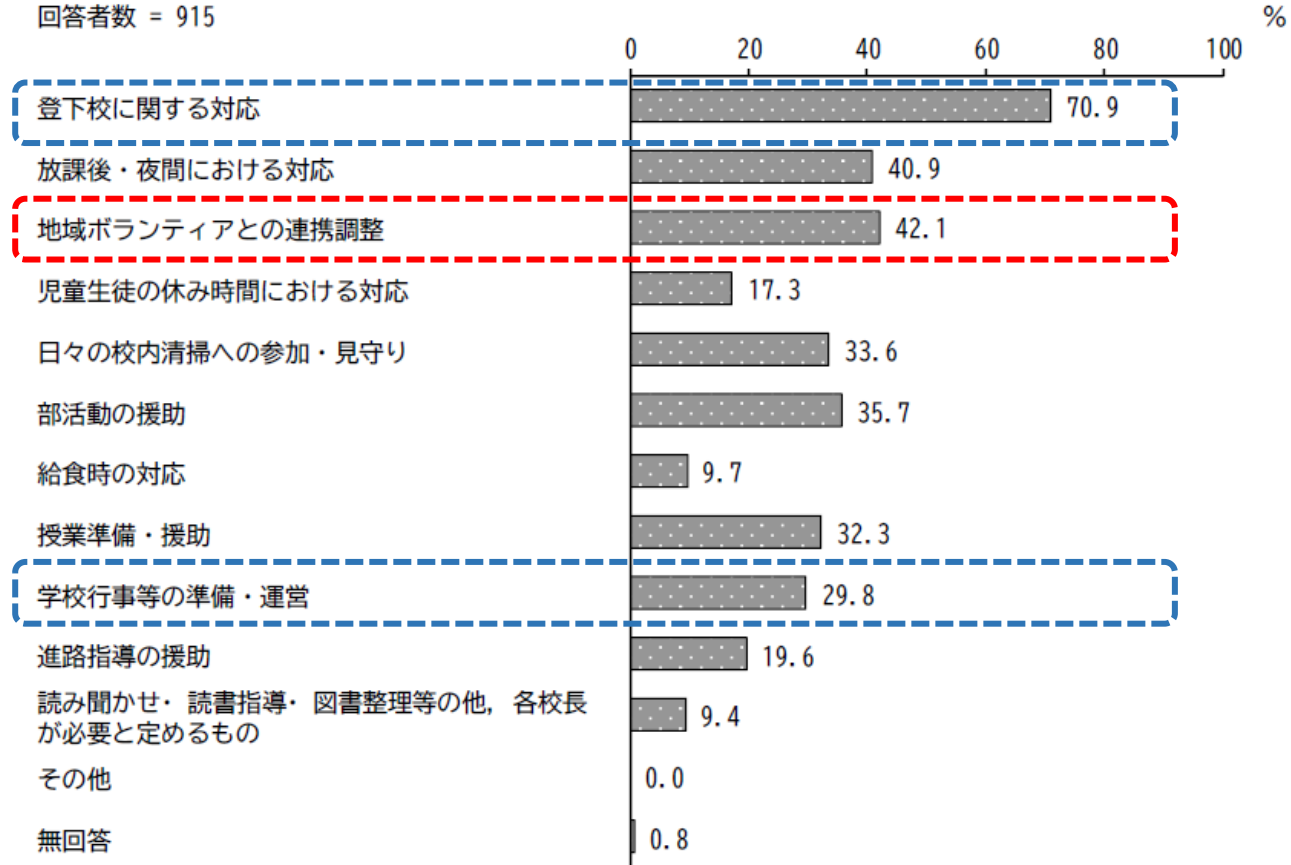
【市民】



設問 学校として地域に求めたいこと（いくつでも）

【教職員】

回答者数 = 915



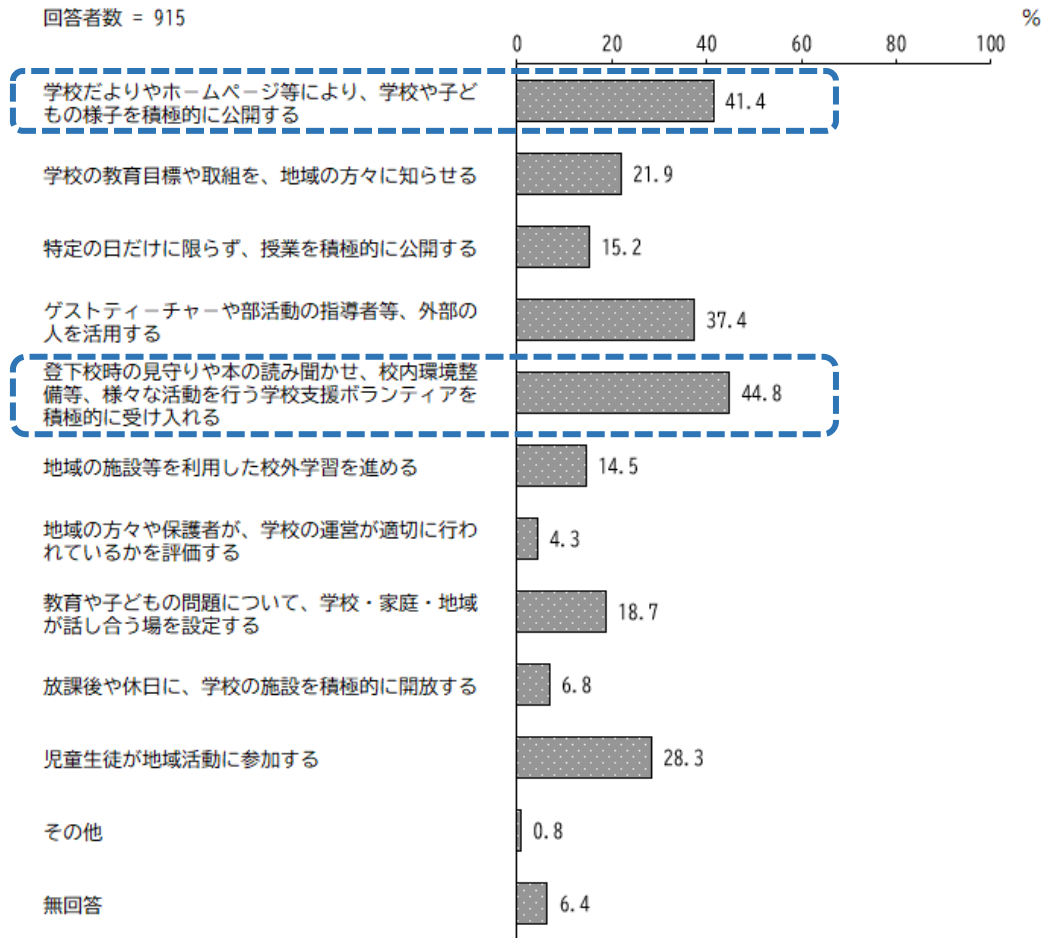
- 「登下校に関する対応」や「学校行事への支援」について需給ニーズは一致。
- その他学校としては幅広い支援を求めたいと回答している一方、市民としては協力したくてもできていない現状があると考えられる。
- 学校現場では、「地域ボランティアとの連絡調整」が高く、地域等学校をつなぐ存在が必要とされていると考えられる。

回答概要

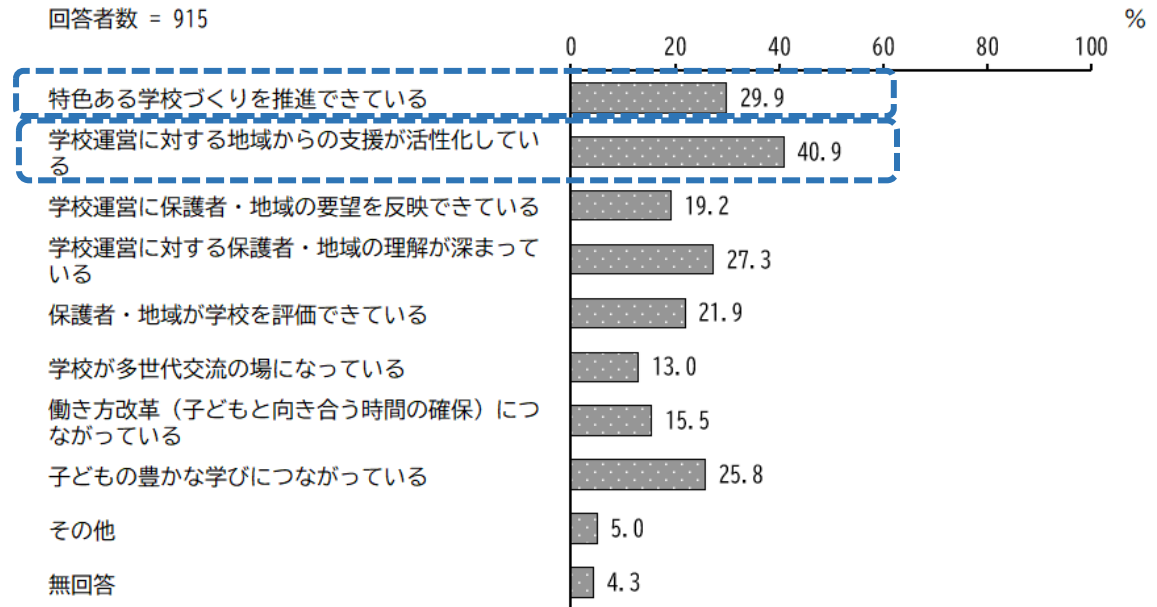


設問 地域とともにある学校づくりで大切なこと (3つまで) 【教職員】

設問 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組の現状の成果は(いくつでも) 【教職員】



- 「地域の受け入れ」と「学校の様子の情報発信」を積極的に行うことが大切と捉えられている。

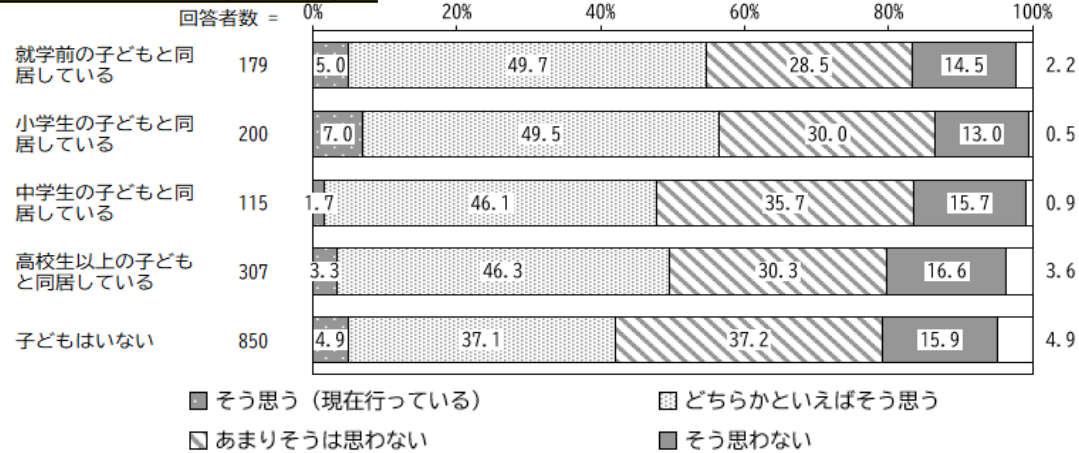


- 「特色ある学校づくりの推進」と「地域支援の活性化」といった成果が出ていると考えられる。

回答概要

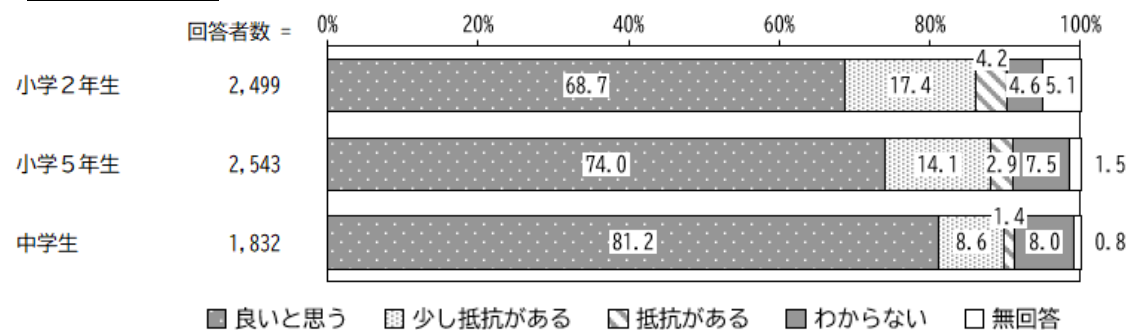


設問 地域の教育活動や学校支援ボランティアに協力 したいか（1つ）【市民】



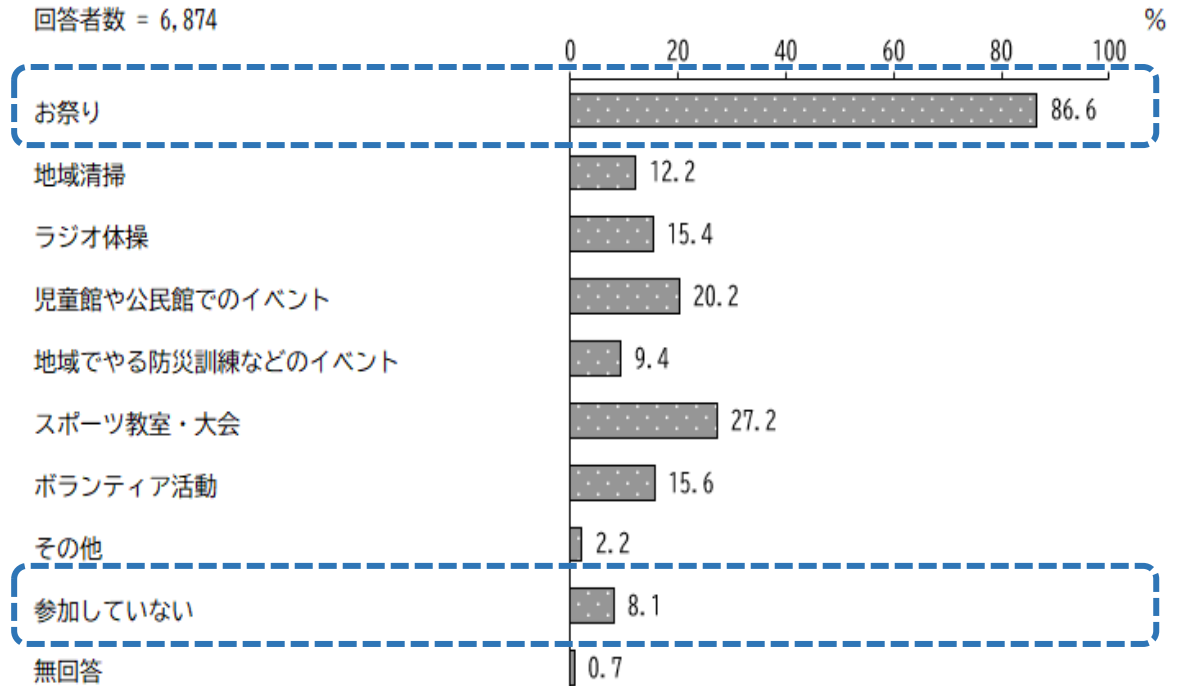
いずれのカテゴリーにおいても肯定的な意見と否定的な意見が拮抗している。

設問 学校に地域の大人がいることをどう思うか （1つ）【小・中学生】



学年が上がるにつれて、地域ボランティアに対する抵抗感が薄れている。

設問 どのような地域イベントに参加しているか （いくつでも）【小・中学生】



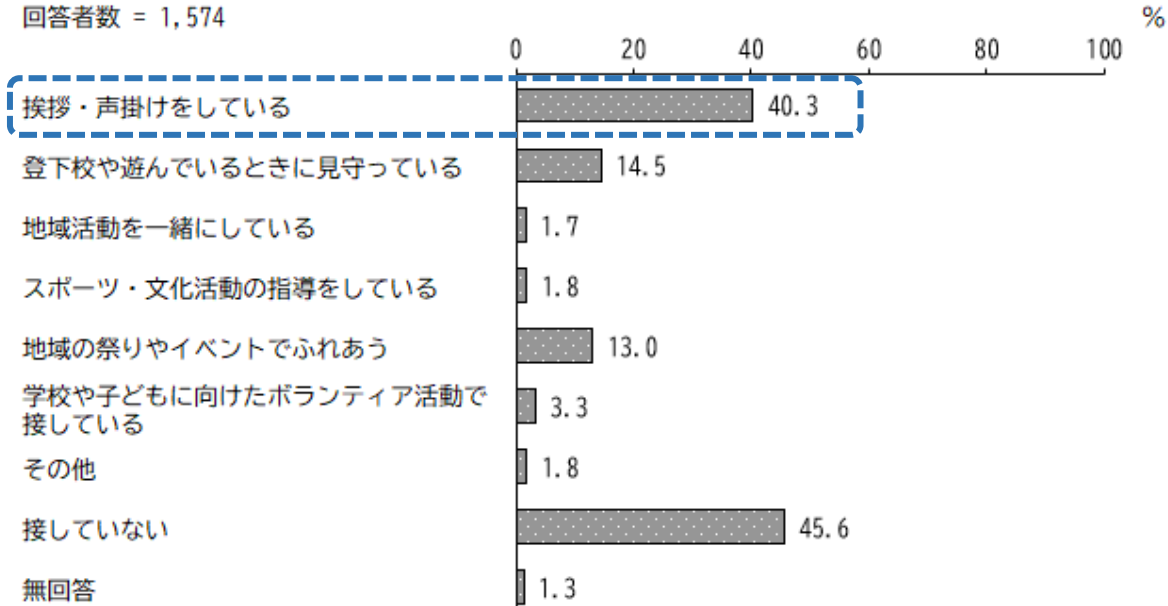
- 「参加していない」と回答した割合は1割未満と少ないことから、多くの小中学生が地域イベントに参加しているといえる。
 なお、参加イベントの中では、「お祭り」に参加していると回答した割合が圧倒的に多い。

回答概要

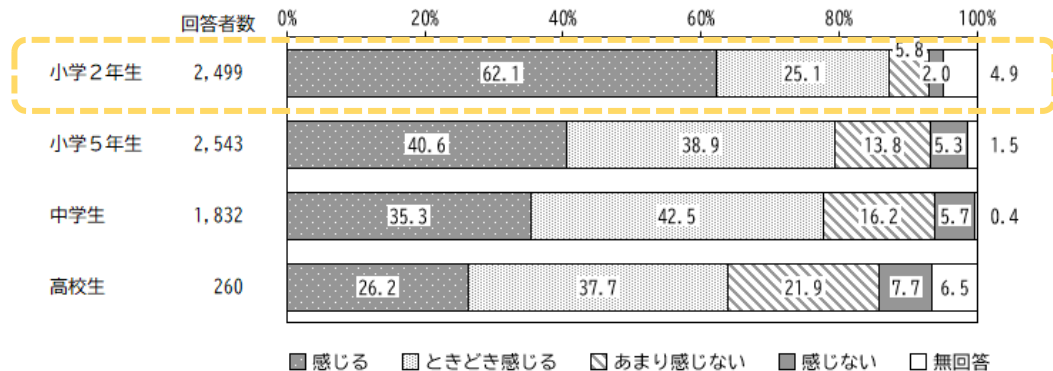


設問 地域の小中学生とどのように接しているか (3つまで) 【市民】

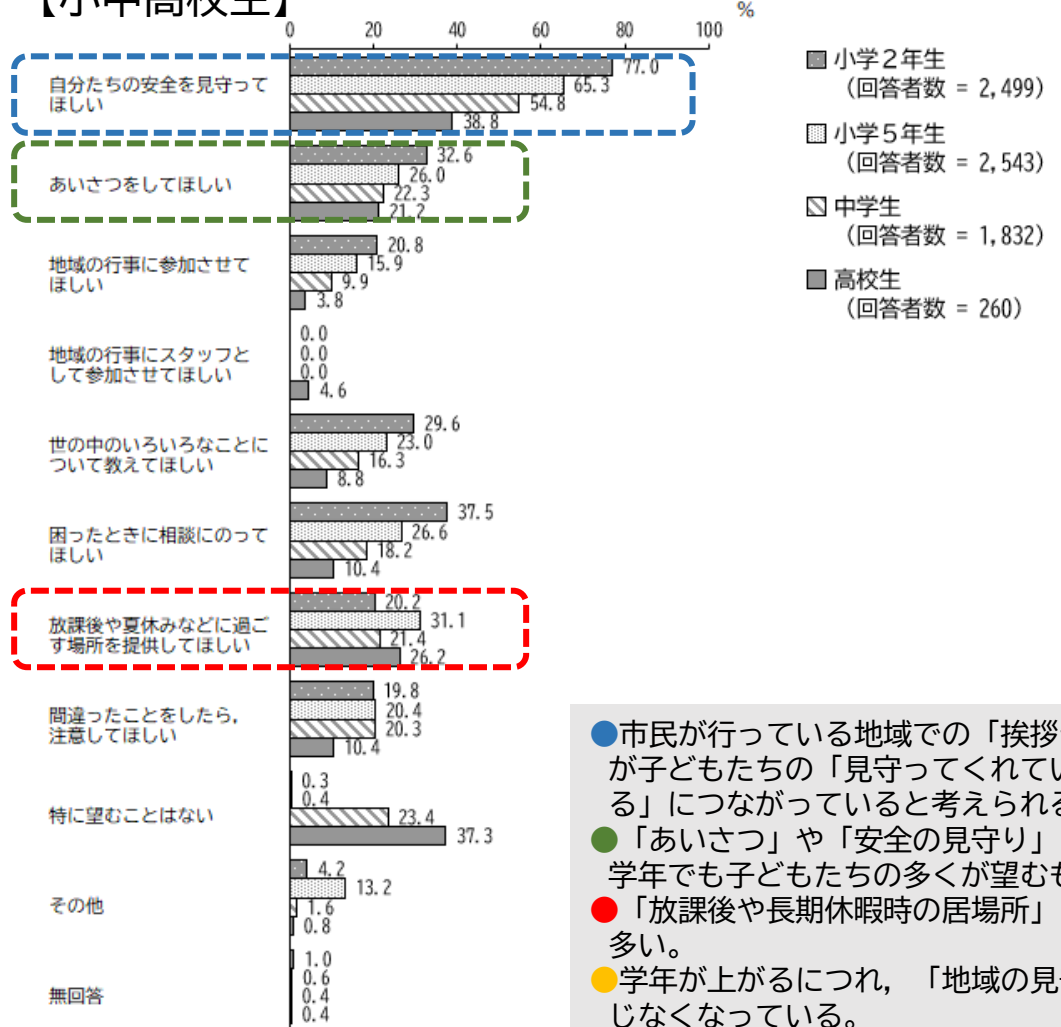
回答者数 = 1,574



設問 地域の大人が見守ってくれていると感じるか (1つ) 【小・中・高校生】



設問 地域の大人に望むこと (3つまで) 【小中高校生】



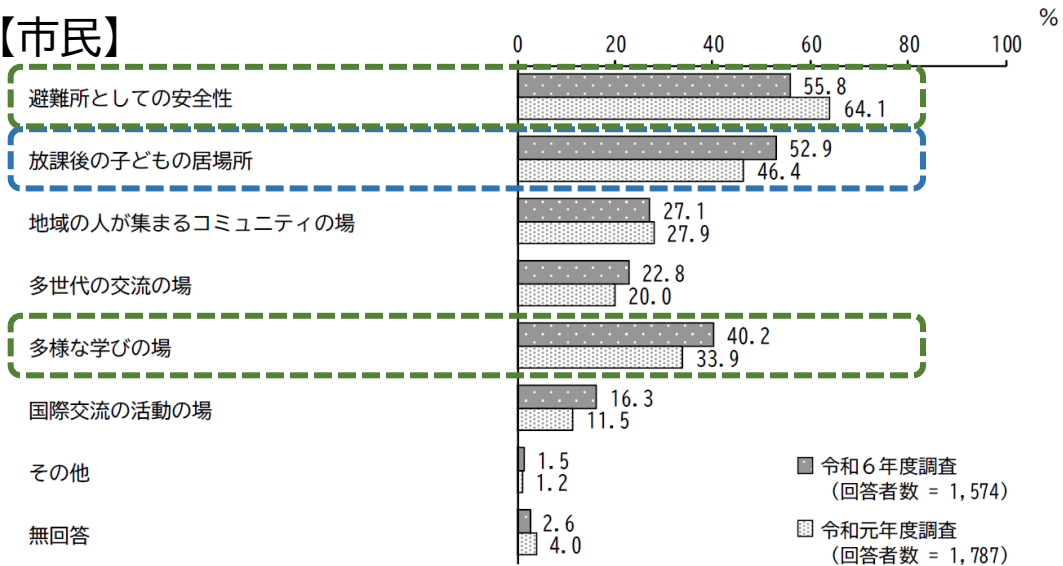
- 市民が行っている地域での「挨拶や声掛け」が子どもたちの「見守ってくれていると感じる」につながっていると考えられる。
- 「あいさつ」や「安全の見守り」はいずれの学年でも子どもたちの多くが望むものである。
- 「放課後や長期休暇時の居場所」を望む声も多い。
- 学年が上がるにつれ、「地域の見守り」を感じなくなっている。

回答概要



設問 学校に対して教育以外に期待すること（3つまで）

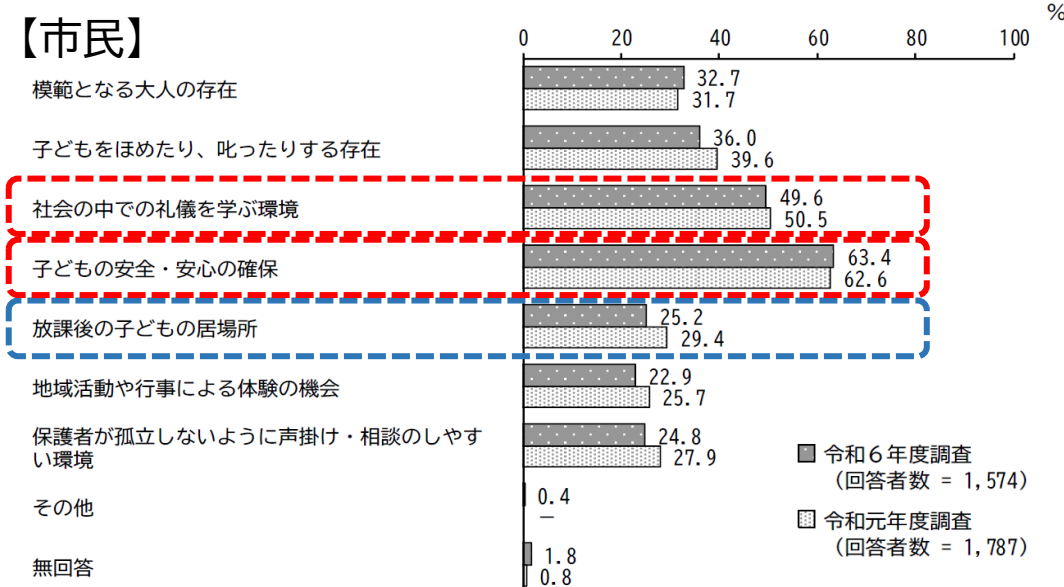
【市民】



- 「放課後の子どもの居場所」は地域よりも学校に期待されている。
- そのほか、学校に対しては、「避難所としての安全性」や「多様な学びの場」としての機能が期待されている。
- 地域に対しては、「安全・安心の確保」や「社会の中での礼儀を学ぶ環境」が期待されている。
- 家庭で大事と考えられていることは前回と傾向は変わらず、「基本的な生活習慣の育成」が最も多く、次いで「思いやりの心の育成」と「社会的なマナーの育成」となっているが、「基本的な倫理観の育成」が増加している。

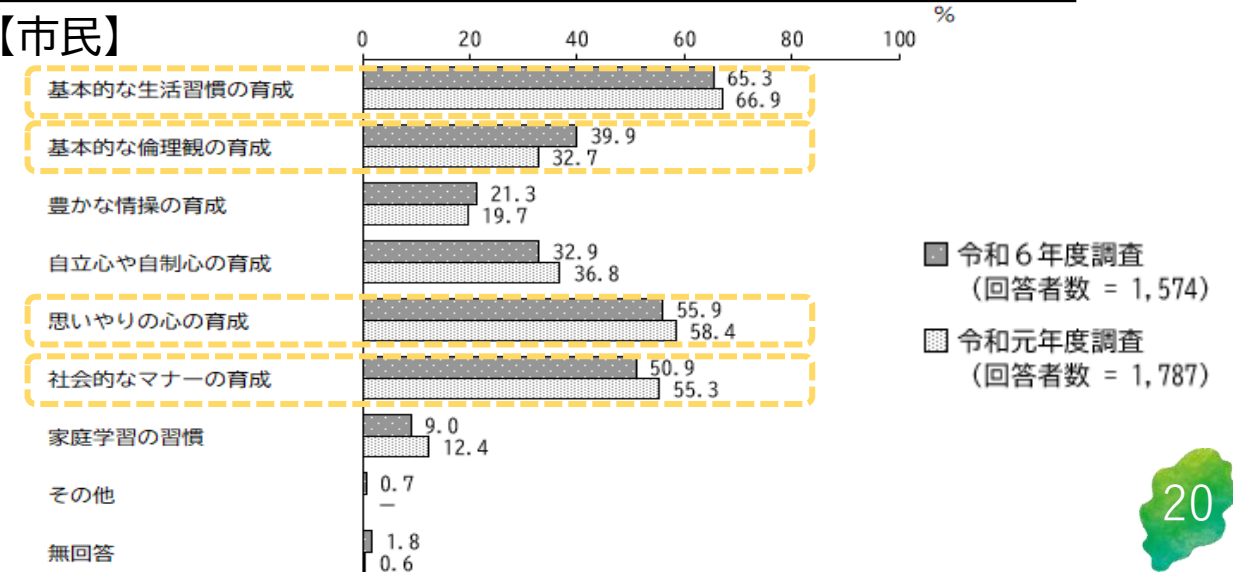
設問 地域における教育で大事なこと（3つまで）

【市民】



設問 家庭における教育で大事なこと（3つまで）

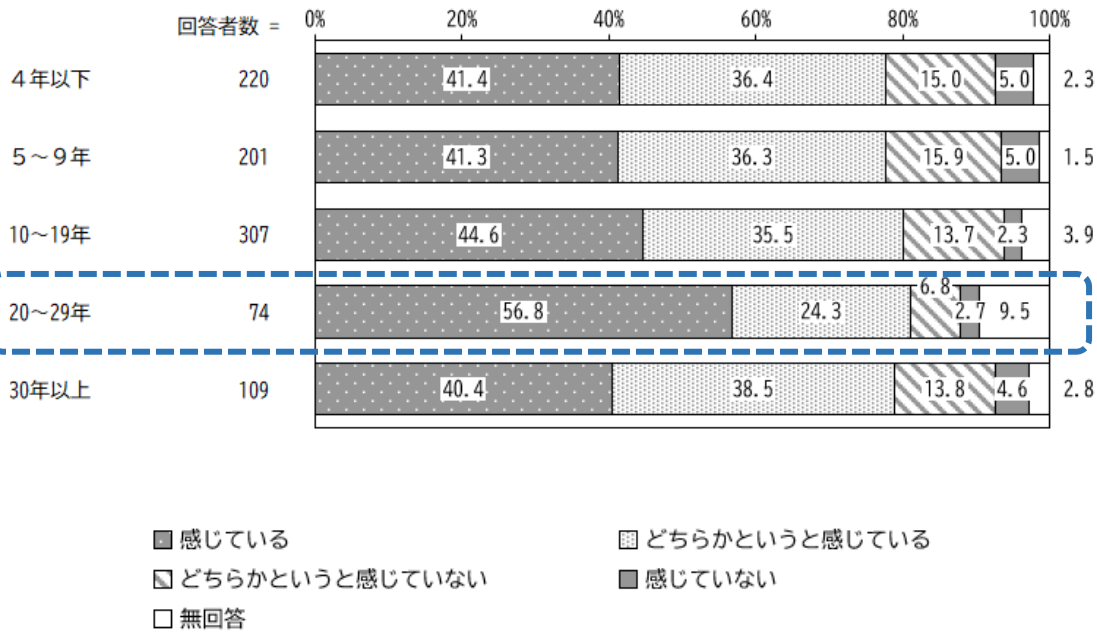
【市民】



回答概要

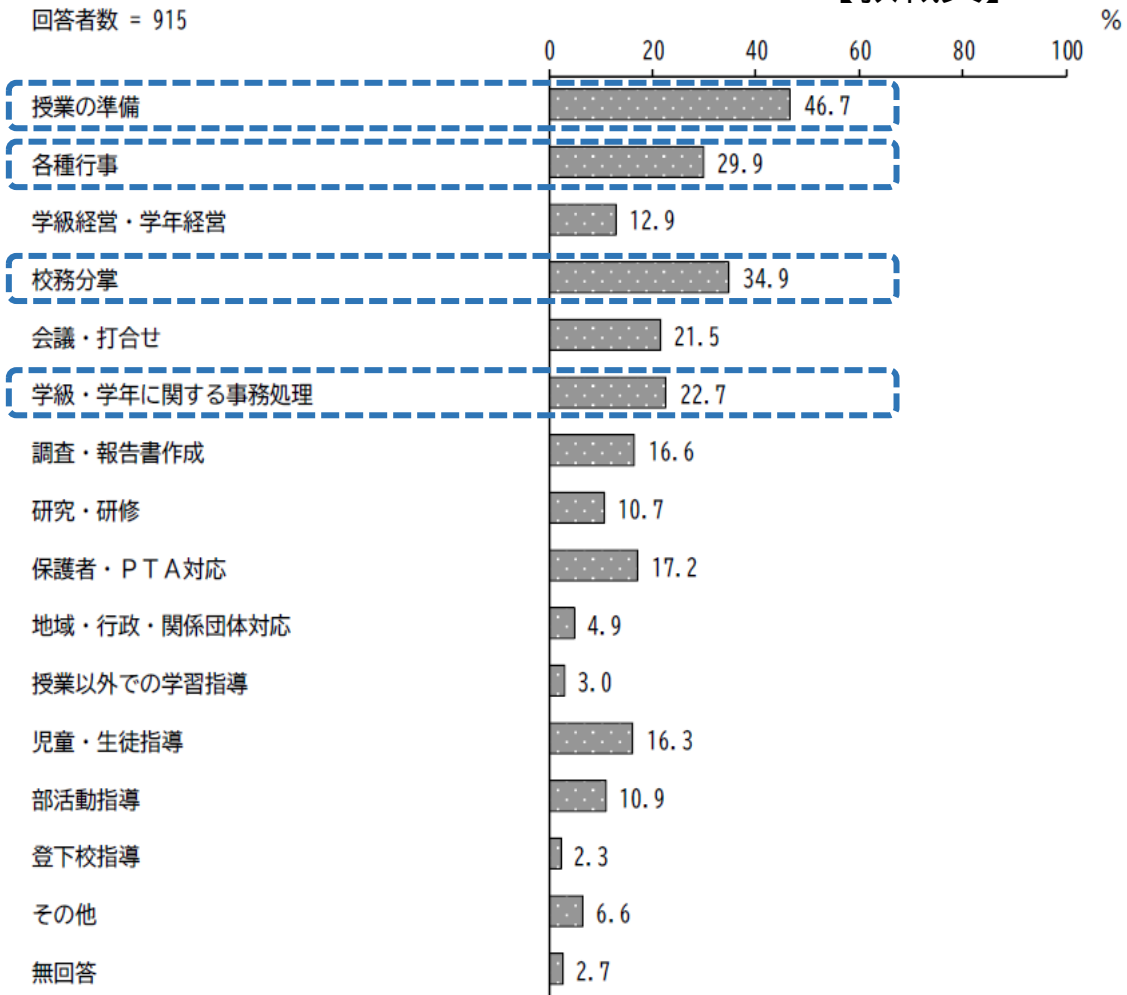


設問 忙しいと感じているか（1つまで）【教職員】



●特に「20～29年目」の教職員の業務負担が大きいと考えられる。

設問 授業以外で時間を要すること（3つまで）【教職員】



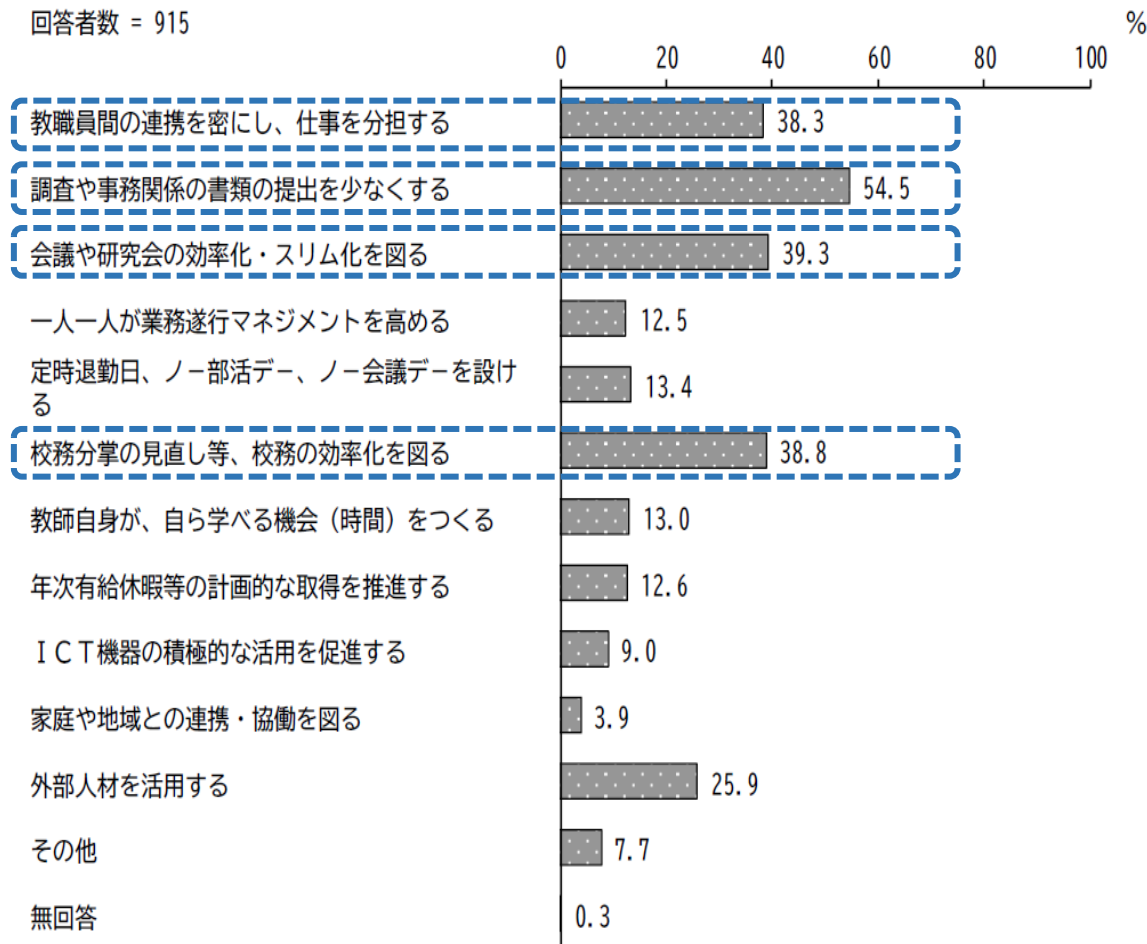
●「授業の準備」や「各種行事」のほか、「校務分掌」や「会議・打合せ」「事務処理」に時間を要している。

回答概要



設問 必要な働き方改革（3つまで）【教職員】

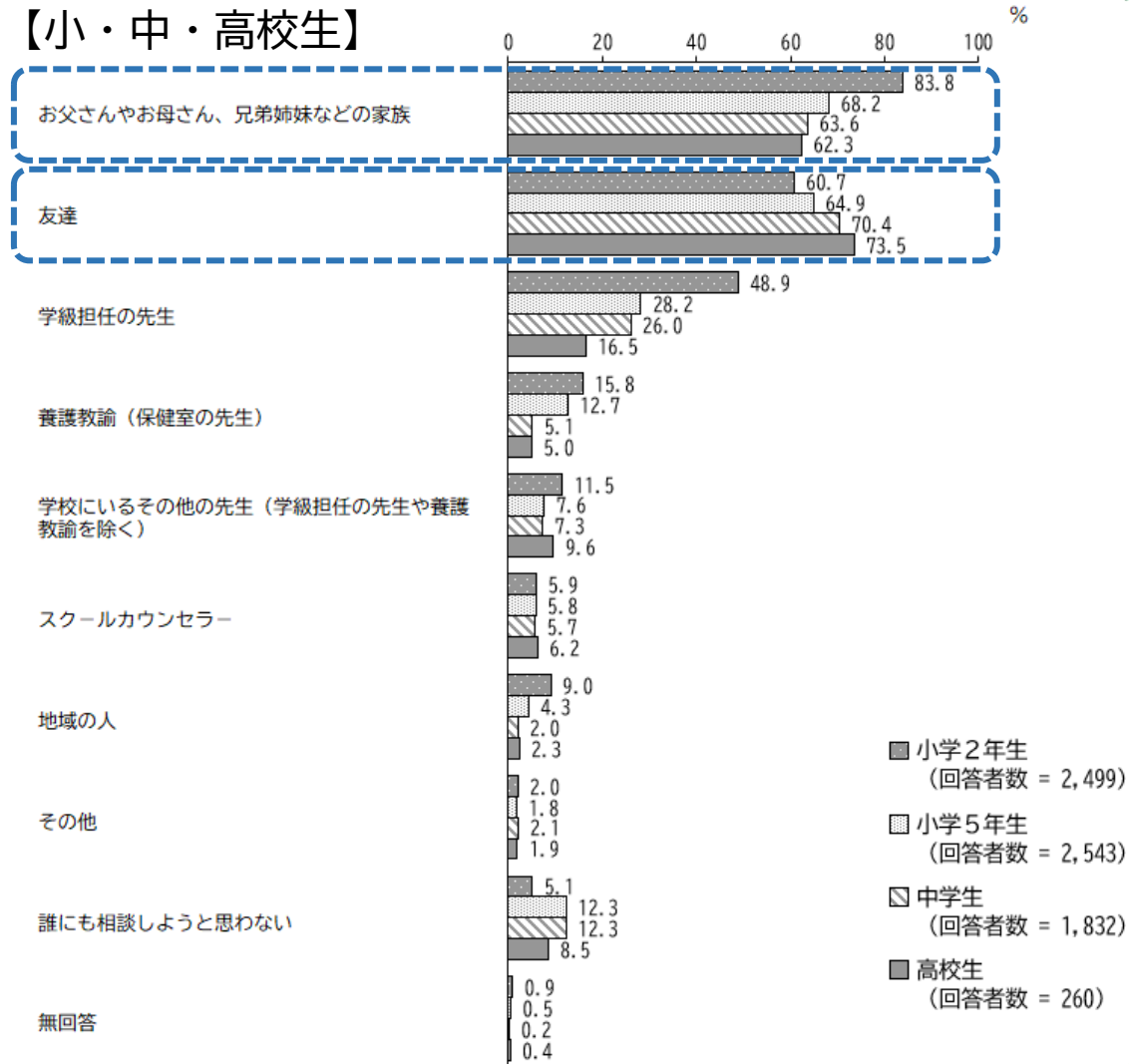
回答者数 = 915



- 「調査や事務関係の書類提出を少なくする」ほか、「会議・研究の効率化・スリム化」や「仕事の分担」「校務分掌の見直し」等が必要。

設問 相談しやすい人は（いくつでも）

【小・中・高校生】



- 学年が上がるにつれ、「家族」から「友達」に相談相手が変化している。